

科目名	教科教育法 I-1(英語)		科目ナンバリング	T-TLEN2-00. NE	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10054		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	エドワード・フォーサイス			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(英語)	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>英語教育について、その目的、言語習得理論との関連、教授法等を考察する。(これにより中学校及び高等学校における外国語(英語)の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。)</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>2-1) 聞くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>2-2) 読むことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>2-3) 話すこと(やり取り・発表)の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>2-4) 書くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>2-5) 複数の領域を統合した言語活動の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>2-10) 異文化理解に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>2-11) 教材及びICTの活用について理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>2-12) 英語でのインタラクションについて理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>2-13) ALT等とのチーム・ティーチングについて理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>3-1) 学習到達目標に基づく授業の組み立てについて理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>3-2) 学習指導案の作成について理解し、授業指導に生かすことができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備 考		
第1回	日本の英語教育 (1)			日本における英語教育について学ぶ。4技能指導について学生の経験についてグループディスカッション。						
第2回	学習指導要領			学習指導要領について学ぶ。指導要領についてグループディスカッション。						
第3回	小学校英語教育			小学校における英語教育、小・中・高等学校の連携について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。						
第4回	第二言語習得研究 (1)			第二言語習得研究と第二言語の指導について学ぶ。外国語教育法について学生発表。				学生発表		
第5回	第二言語習得研究 (2)			第二言語習得研究と第二言語の指導について学ぶ。外国語教育法について学生発表。				学生発表		
第6回	第二言語習得研究 (3)			第二言語習得研究と第二言語の指導について学ぶ。外国語教育法について学生発表。				学生発表		
第7回	学習者			学習者の個人差について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。				小論文提出		
第8回	チーム・ティーチング			ALTとチーム・ティーチング、または国際文化について指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。						
第9回	評価			評価について学ぶ。評価のしかたについてディスカッション。						
第10回	英語の音声と文字の指導			英語の音声、文字の指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。(レポート説明)						
第11回	語彙・表現の指導			語彙の指導、英語4技能・表現の指導について学ぶ。授業にICTの使い方について説明します。						
第12回	文法の指導			文法の指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。						
第13回	英語の授業			英語の授業に使う指導案について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。						
第14回	高校でEnglish Campを実施する			地域の高校でEnglish Campを行います。 学生がスタッフに対して参加必要				実習		
第15回	聖愛中学校・高校授業見学会参加			聖愛中学校・高校授業見学会に参加すること。				レポート提出		
授業方法(注1、注2、注3等)	実習、フィールドワーク	グループワーク	ペアワーク	シグソー・リーディング	ある授業をTEAMS上でオンデマンド式で行う可能性があります					
評価方法及び評価基準	レポート：60%、発表と小論文：20%、授業への参加：20% (レポート・小論文・発表を内容と英語の使い方をルーブリックで評価します)。到達目標に向けて基礎理解のための課題が適切な方法でできているか、授業内容を踏まえ自分の考えが明確に表現できているかを評価する。									
課題等	レポートは準備段階から個別に対応する。各授業で学生がパソコンやスマートフォンを使うことである。									
事前事後学修	各授業時のテーマについてあらかじめ読み、疑問点や自分の考えなどを整理して授業内の議論に備える。発表に備えて授業で取り上げたテーマに関連する文献を読む。提出物を仕上げる事で授業内容の復習、確認をする。議論や発表など授業を通して学んだ事を踏まえ、考えた事について書く(課題1~2)。レポートを書くにあたってはテーマを選び、関連の文献を読むことでより深く学び考える。授業外における学習に費やす時間の目安は週3時間程度。									
教材教科書参考書	『グローバル時代の英語教育』成美堂出版 岡 秀夫 編著 (2010年 ISBN: 978-4-7919-3099-9) 中学校学習指導要領(最新版)及び同解説; 高等学校学習指導要領(最新版)及び同解説									
留意点	授業見学と集中講義を夏季休業中に実施する。欠席する場合、できれば事前に知らせることが必要となる。									

科目名	教科教育法 I-2(英語)		科目ナンバリング	T-TLEN2-01.NE	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10055		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	エドワード・フォーサイス			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(英語)	必修								
授業の概要等	【授業の主旨】									
	中学校及び高等学校における外国語(英語)の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。									
到達目標	2-1) 聞くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 2-2) 読むことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 2-3) 話すこと(やり取り・発表)の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 2-4) 書くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 2-5) 複数の領域を統合した言語活動の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。					2-10) 異文化理解に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 2-11) 教材及びICTの活用について理解し、授業指導に生かすことができる。 2-12) 英語でのインタラクションについて理解し、授業指導に生かすことができる。 2-13) ALT等とのティーム・ティーチングについて理解し、授業指導に生かすことができる。 3-1) 学習到達目標に基づく授業の組み立てについて理解し、授業指導に生かすことができる。 3-2) 学習指導案の作成について理解し、授業指導に生かすことができる。				
	授 業 計 画									
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	科目説明と英語コミュニケーションの議論			コース目的を説明して、コミュニケーションのやり方について議論				グループディスカッション		
第2回	4技能とタスク・ベースの英語指導			4技能とタスク・ベースの英語指導について議論。学生の経験についてグループディスカッション。				タスク・ベース指導の準備		
第3回	学生発表			タスク・ベース指導について学生が発表する。学生の経験についてグループディスカッション。				タスク・ベース指導デモンストレーション		
第4回	リスニング指導			リスニング指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。				リスニング課題説明		
第5回	スピーキング指導			スピーキング指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。				スピーキング課題説明		
第6回	リスニング・スピーキング指導練習			学生がリスニングとスピーキングアクティビティを指導する				L・S指導デモンストレーション		
第7回	リーディング指導			リーディング指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。				リーディング課題説明		
第8回	ライティング指導			ライティング指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。				ライティング課題説明		
第9回	リーディング・ライティング指導練習			学生がリーディングとライティングアクティビティを指導する				R・W指導デモンストレーション		
第10回	英語の授業でのICTの使い方			英語の指導でのICTの使い方について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。						
第11回	欧米文化指導			英語と欧米文化の指導について学ぶ。学生の経験についてグループディスカッション。				文化関係課題説明		
第12回	指導案の作り方			指導案の作り方について学ぶ。小論文の説明。				指導案を作る		
第13回	英語の授業デモンストレーション			英語の模擬講義；小論文について考える				英語の授業デモンストレーション		
第14回	英語の授業への見学			本学の英語の授業を見学すること。				見学レポートを提出		
第15回	高校でEnglish Campを実施する			地域の高校でEnglish Campを行います。 学生がスタッフに対して参加必要				実習		
授業方法(付 録1の「7」 「ア」等)	グループワーク	ペアワーク	実習、フィールドワーク	発表、ポスター作成						
	ある授業をTEAMS上でオンデマンド式で行う可能性があります									
評価方法及び評価基準	授業見学と授業評価レポート：30%；英語の模擬講義(内容とスタイル)：30%；小論文(内容と英語正確さ)：30%；宿題と授業への参加：10%。(課題・小論文・発表を内容と英語の使い方をループリックスで評価します)									
課題等	課題等は次時間に返却するが、不十分な場合は再提出とする。各授業で学生がパソコンやスマートフォンを使うことである。									
事前事後学修	授業で紹介する文書を読んでください。読んだ文書について、説明発表をしてもらいます。 準備学習時間の目安：1日あたり90分以上。									
教材教科書参考書	『グローバル時代の英語教育』成美堂出版 岡 秀夫 編著 (2010年 ISBN: 978-4-7919-3099-9) 中学校学習指導要領(最新版)及び同解説；高等学校学習指導要領(最新版)及び同解説									
留意点	授業見学と集中講義が夏季休業中に実施する。欠席する場合、できれば事前に知らせることが必要となる。									

科目名	教科教育法ⅡA(英語)		科目ナンバリング	T-TLEN3-02.NE	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	L10074		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	野呂 徳治			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(英語)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 英語科における授業設計、教材研究、授業実践、授業分析の方法について実践的かつ省察的に学ぶとともに、英語科の授業が抱える課題を検討する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	学習指導案の作成、授業実践及び授業分析を通して英語科の授業のあり方について実践的理解を深めることができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	オリエンテーション			授業の概要・授業計画・評価方法等についての説明 レポート①「私が受けた英語科の良い授業」(第2回授業時提出)				講義・ディスカッション		
第2回	英語科の目標と内容			学習指導要領にみる小学校・中学校・高等学校の目標及び内容				講義		
第3回	授業設計(1)			目標分析による目標設定、年間指導計画、単元の指導計画の策定				講義		
第4回	授業設計(2)			評価計画の策定、1単位授業時間の授業構成、教師の役割				講義		
第5回	授業設計(3)			代表的な教授学習活動、教材・教具の準備				講義		
第6回	教材研究(1)			教材研究の目的と方法、教材分析、教材解釈				講義		
第7回	教材研究(2)			教材研究と授業設計 履修学生による教材研究演習				講義・PBL		
第8回	まとめ+試験			(中間)まとめ+試験の実施				講義・試験		
第9回	学習指導案の作成(1)			学習指導案の目的と役割、学習指導の種類と内容 マイクロティーチング(1)に向けての学習指導案の作成				講義・PBL		
第10回	マイクロティーチング(1)			履修学生によるマイクロティーチング(1) プレゼンテーションツール等を用い、10分程度の模擬授業を行う				模擬授業・ディスカッション		
第11回	授業分析(1)			授業分析の方法と実践 マイクロティーチング(1)の授業分析の実践				講義・PBL・ディスカッション		
第12回	学習指導案の作成(2)			マイクロティーチング(2)に向けての学習指導案の作成				PBL		
第13回	マイクロティーチング(2)			履修学生によるマイクロティーチング(2) プレゼンテーションツール等を用い、10分程度の模擬授業を行う				模擬授業・ディスカッション		
第14回	授業分析(2)			マイクロティーチング(2)の授業分析の実践				講義・PBL・ディスカッション		
第15回	英語科授業の課題及びまとめ			英語科授業の課題について履修学生によるディスカッション レポート②「コミュニケーション能力の基礎を養う授業とは」				講義・ディスカッション		
授業方法(注1) ア)授業 等)	PBL(問題解決型学習)		実習、フィールドワーク	誘導ディスカッション	まとめアクティビティ	発表、ポスター作成	理解度チェック	リフレクションシート	授業中のノート取り	
評価方法及び評価基準	試験(50%)、学習指導案の作成(20%)、マイクロティーチング(20%)、レポート(10%)の結果に授業への取り組みを加味し、総合的に評価する。試験及びレポートでは、英語科における授業のあり方について実践的理解がどの程度深まっているか、また、それがどの程度論理的に記述できているかを評価する。									
課題等	課題等は次時に返却するが、不十分な場合は再提出とする。									
事前事後学修	教科書並びに授業で配布するハンドアウト及び参考図書を読み、各回の授業に目的意識を持って臨むと共に、授業後は学習内容を整理し、授業で扱ったテーマについてさらに問題意識を高める。									
教科書参考書	「新・英語教育学概論〔改訂第2版〕」(高梨庸雄 他 著、金星堂) ISBN 978-4-7647-4186-7 「小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051685 「中学校学習指導要領解説外国語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051692 「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051784									
留意点	英語科における学習指導、授業のあり方について自分なりの問題意識を持ち、積極的に授業活動に取り組むこと。後期において「教科教育法ⅡC(英語)」を受講するには、本科目を履修していなければならない。									

科目名	教科教育法ⅡB(英語)		科目ナンバリング	T-TLEN3-03.NE	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L10075		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	野呂 徳治				授業 形態	講義	単独
	教員免許(英語)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 言語テスト理論の基礎を概観し、英語科におけるテスト及び学習評価の方法について実践的に学ぶとともに、それらが抱える課題を検討する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	英語科におけるテスト作成を通して言語テスト理論の基礎並びに英語科におけるテスト及び学習評価のあり方について実践的理解を深めることができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			授業の概要・授業計画・評価方法等についての説明 レポート①「私が受けた英語科の良いテスト」(第2回授業時提出)					講義・ディスカッション	
第2回	テストと評価			測定とテスト、形成的評価と総括的評価、波及効果					講義	
第3回	テストの目的と種類			熟達度テスト、到達度テスト、診断テスト、配置テスト					講義	
第4回	テストの妥当性(1)			構成概念妥当性、内容妥当性と基準関連妥当性					講義	
第5回	テストの妥当性(2)			採点における妥当性、妥当性を高めるために					講義	
第6回	テストの信頼性(1)			テスト問題の信頼性、採点上の信頼性					講義	
第7回	テストの信頼性(2)			信頼性を高めるために、信頼性と妥当性					講義	
第8回	まとめ+試験			(中間)まとめ+試験の実施					講義・試験	
第9回	テストの波及効果			有益な波及効果と有害な波及効果、有益な波及効果をもたらすために					講義	
第10回	テスト細目規定			テスト細目規定の目的と役割、テスト細目規定の作成					講義・PBL	
第11回	英語科到達度テストの作成			履修学生による英語科の到達度テストの作成					PBL	
第12回	英語科到達度テストの発表			履修学生による各自が作成したテストの発表 プレゼンテーションツール等を用い、短時間でわかりやすく発表する					プレゼンテーション・ディスカッション	
第13回	英語科到達度テストの分析			テスト分析の方法と実践 履修学生による各自が作成したテストの分析					講義・PBL・ディスカッション	
第14回	英語科におけるテストと学習評価			形成的テストと総括的テスト、テスト以外の評価方法					講義	
第15回	英語科におけるテストと評価の課題及びまとめ			英語科におけるテストと評価の課題について履修学生によるディスカッション、レポート②「有益な波及効果をもたらす英語科テスト」					講義・ディスカッション	
授業方法(方法・手段・メディア等)	PBL(問題解決型学習)		実習、フィールドワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	まとめアクティビティ	理解度チェック	授業中のノート取り	リフレクションシート	
評価方法及び評価基準	試験(50%)、テストの作成(40%)、レポート(10%)の結果に授業への取り組みを加味し、総合的に評価する。試験及びレポートでは、英語科におけるテスト作成のあり方について実践的理解がどの程度深まっているか、また、それがどの程度論理的に記述できているかを評価する。									
課題等	課題等は次時に返却するが、不十分な場合は再提出とする。									
事前事後学修	教科書並びに授業で配布するハンドアウト及び参考図書を読み、各回の授業に目的意識を持って臨むと共に、授業後は学習内容を整理し、授業で扱ったテーマについてさらに問題意識を高める。									
教材教科書参考書	「新・英語教育学概論〔改訂第2版〕」(高梨庸雄 他 著、金星堂) ISBN 978-4-7647-4186-7 「小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051685 「中学校学習指導要領解説外国語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051692 「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051784									
留意点	英語科におけるテスト・評価のあり方について自分なりの問題意識を持ち、積極的に授業活動に取り組むこと。									

科目名	教科教育法ⅡC(英語)		科目ナンバリング	T-TLEN3-04.NE	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L10085		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	野呂 徳治				授業 形態	講義	単独
	教員免許(英語)	選択								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>外国語教育における意味と形式の指導の統合を目指すアプローチである「フォーカス・オン・フォーム」(FonF)の理論的背景及び指導原理を概観した上で、中学校・高等学校の英語科授業への応用可能性とその課題について検討し、コミュニケーション能力の育成を図る指導のあり方について考究する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	FonFのアプローチに基づく具体的な教授学習活動の作成演習を通して、中学校・高等学校の英語科授業におけるコミュニケーション能力の育成を図る指導のあり方について実践的理解を深めることができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			授業の概要・授業計画・評価方法等についての説明 レポート①「コミュニケーション能力とは何か」(第2回授業時提出)					講義・ディスカッション	
第2回	外国語教育とコミュニケーション能力(1)			コミュニケーション能力とその構成要素					講義	
第3回	外国語教育とコミュニケーション能力(2)			外国語教育で育成を目指すコミュニケーション能力					講義	
第4回	外国語教育における意味と形式の指導(1)			外国語の意味と形式の指導					講義	
第5回	外国語教育における意味と形式の指導(2)			外国語教育における意味と形式の指導の変遷、PPPアプローチ					講義	
第6回	FonFの理念と指導原理(1)			FonFとその特徴、FonFの指導原理					講義	
第7回	FonFの理念と指導原理(2)			FonFによるコミュニケーション能力の発達、場面・文脈の活用とFonF					講義	
第8回	まとめ+試験			(中間)まとめ+試験の実施					講義・試験	
第9回	FonFの指導技術(1)			「スキル」としての文法指導、「先取り型」と「反応型」のFonF					講義	
第10回	FonFの指導技術(2)			FonFによるQ-A活動の工夫、FonFによるタスクの工夫					講義	
第11回	FonFに基づく教授学習活動の作成			履修学生によるFonFに基づく教授学習活動の作成					PBL	
第12回	FonFに基づく教授学習活動の発表			履修学生による各自が作成した教授学習活動の発表 プレゼンテーションツール等を用い、短時間でわかりやすく発表する					プレゼンテーション・ディスカッション	
第13回	FonFに基づく教授学習活動の分析・評価			履修学生による各自が作成した教授学習活動の分析と評価					PBL・ディスカッション	
第14回	FonFに基づく英語科授業の可能性			学習指導要領とFonFに基づく英語科の授業、FonFに基づく英語科における評価					講義	
第15回	FonFに基づく英語科授業の課題及びまとめ			FonFに基づく英語科授業の課題について履修学生によるディスカッション レポート②「FonFに基づく英語科授業の可能性と課題」					講義・ディスカッション	
授業方法(中 ド・フ ア ラ ン グ 等)	PBL(問題解決型 学習)	実習、フィールド ワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッ ション	まとめアクティビ ティ	理解度チェク	授業中のノート取り	リフレクションシ ート		
評価 方法 及び 評価 基準	試験(50%)、教授学習活動の作成(40%)、レポート(10%)の結果に授業への取り組みを加味し、総合的に評価する。試験及びレポートでは、英語科授業におけるコミュニケーション能力の育成を図る指導のあり方について実践的理解がどの程度深まっているか、また、それがどの程度論理的に記述できているかを評価する。									
課題 等	課題等は次時に返却するが、不十分な場合は再提出とする。									
事前事後 学修	教科書並びに授業で配布するハンドアウト及び参考図書を読み、各回の授業に目的意識を持って臨むと共に、授業後は学習内容を整理し、授業で扱ったテーマについてさらに問題意識を高める。									
教材 教科書 参考書	「新・英語教育学概論[改訂第2版]」(高梨庸雄 他 著、金星堂) ISBN 978-4-7647-4186-7 「小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051685 「中学校学習指導要領解説外国語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051692 「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」(文部科学省、開隆堂) ISBN 978-4304051784									
留意 点	英語科授業におけるコミュニケーション能力の育成を図る指導のあり方について自分なりの問題意識を持ち、積極的に授業活動に取り組むこと。 本科目を受講するには、前期において「教科教育法ⅡA(英語)」を履修していなければならない。									

科目名	教科教育法 I - 1 (国語)		科目ナンバリング	T-TLJA2-00. NJ	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10056		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	福士 りか				授業 形態	講義	単独
	教員免許 (国語)	必修								
授業の概要等	【授業の主旨】									
	学習指導要領の要点を確認するとともに、授業の組み立て方を考える。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。									
到達目標	○学習指導案を作成し、模擬授業を行う。○学ぶ姿勢を持ち、言語活動の充実をはかる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			前期学修内容の確認 「実践国語科教育法」序章・1章を学ぶ					ディスカッション	
第2回	学習指導要領の確認			文部科学省学習指導要領 (中学校・高校)						
第3回	話すこと・聞くことの授業			「実践国語科教育法」4章の内容について考える。					ディスカッション	
第4回	実践－プレゼンテーション			前時の学習をもとにプレゼンテーションを行う					プレゼンテーション	
第5回	書くことの授業			「実践国語科教育法」5章の内容について考える					ディスカッション	
第6回	実践－小論文を書く			前時の学習をもとに文章の書き方を確認する						
第7回	読むことの授業			「実践国語科教育法」6章の内容について考える					ディスカッション	
第8回	実践－文学的文章の読み方			前時の学習をもとに文学的文章を読み解く					グループワーク	
第9回	実践－説明的文章の読み方			前時の学習をもとに説明的文章を読み解く					グループワーク	
第10回	韻文教材の授業			「実践国語科教育法」7章の内容について考える					ディスカッション	
第11回	実践－詩、短歌、俳句の鑑賞			韻文の表現技法を復習し、作品鑑賞・実作する					グループワーク	
第12回	古典の授業			「実践国語科教育法」8章の内容について考える					ディスカッション	
第13回	実践－文法に頼らない授業			前時の学習をもとに古典の授業を組み立てる					グループワーク	
第14回	学習指導案の書き方			「実践国語科教育法」11章の内容について考える					ディスカッション	
第15回	前期の振り返り			各講義の要点を確認、復習する						
授業方法 (PBL (問題解決型学習) など)	グループワーク	ペアワーク	ディベート	ロールプレイング						
評価方法及び評価基準	○各講義 (授業) 内容をまとめたものを提出/確認テスト *第1、2、3、5、7、8、10、11、14回 (45点) ○各講義の実践 (プレゼンテーション、授業の組み立て等) *第4、6、9、12回 (40点) ○レポート (15点)									
課題等	毎時間の予習と確認テスト									
事前事後学修	講義予定の章段を読み内容をノートに整理して講義に臨む (随時点検)									
教材教科書参考書	教科書: 文部科学省中学校学習指導要領平成29年度告示解説国語編 978-4-491-03470-6 教科書: 文部科学省高等学校学習指導要領平成29年度告示解説国語編 978-4-491-03640-3 教科書: 町田守弘「実践国語科教育法第3版」学文社 2019年 978-4-7620-2860-1									
留意点	テキストの予習必須。ディスカッションや発表の時間をより多く設けます。積極的な参加を求めます。									

科目名	教科教育法Ⅰ-2(国語)		科目ナンバリング	T-TLJA2-01.NJ	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10057		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	福士 りか			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(国語)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>前期で学んだことをもとに授業計画を立て模擬授業をする</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	○学習指導案を書くことができ、それに則って授業できる									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス ディベート①			後期の学修内容を確認する ディベートのルールを確認する						
第2回	ディベートの試み②			論題を決め、論の展開をまとめる					ディベート	
第3回	ディベートの試み③			模擬試合をする					ディベート	
第4回	漢字の学習			配布された文章で漢字テストを作り提出する					ペアワーク	
第5回	「少年の日の思い出」を読む①			教材観について意見交換する					ディスカッション	
第6回	「少年の日の思い出」を読む②			グループごとにそれぞれの学習指導案について意見交換する					ディスカッション	
第7回	「少年の日の思い出」を読む③			いくつかの論題を設定し意見交換する					ディベート	
第8回	「竹取物語」の授業①			グループごとに授業の指導計画を立てる					グループワーク	
第9回	「竹取物語」の授業②			指導計画を発表する					ディスカッション	
第10回	「竹取物語」の授業③			模擬授業を行う						
第11回	「竹取物語」の授業④			模擬授業を行う						
第12回	「竹取物語」の授業⑤			模擬授業を行う					プレゼンテーション	
第13回	ビブリオバトル			読書の魅力を考えて発表する						
第14回	国語教育の課題			いくつかのテーマについて意見交換する。					ディスカッション	
第15回	後期の振り返り			各講義の要点を整理復習する						
授業方法(アクティブラーニング等)	グループワーク	グループワーク	ペアワーク	ディベート	ロールプレイング	PBL(問題解決型学習)				
評価方法及び評価基準	○学習指導案 25点×2 (50点) ○ディベートのフローチャートと参加態度 (15点) ○模擬授業 (25点) ○ビブリオバトルの発表内容と態度 (10点)									
課題等	時間ごとに課題の指示を出す									
事前事後学修	講義ごとの課題に対して誠実に取り組むこと									
教材教科書参考書	前期に同じ									
留意点	知識だけではなく実践を通して教師の表現力を培いましょう									

科目名	教科教育法ⅡA(国語)		科目ナンバリング	T-TLJA3-02. NJ	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	L10076		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	田中 拓郎				授業 形態	講義	単独
	教員免許(中学国語)	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校の国語科教員として授業を担当するために必要な知識と技術について学ぶとともに、国語科授業を構想することを通して、国語科教育の理論と実践のあり方について理解を深める。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中等教育における国語教育（主に「読むこと」領域）の理論と方法に関する基本的な知識が身についている。 ・中等教育における国語科の教材（主に「読むこと」領域）について分析・考察し、それをもとに授業を構想し、学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	ガイダンス			授業内容の説明						
第2回	中学校の授業構想及び学習指導案の作成の仕方			中学校の授業構想の仕方及び学習指導案作成におけるポイントについて理解する						
第3回	学習指導要領に基づいた高等学校の国語科授業			学習指導要領をもとに、高等学校に求められる国語科授業について理解する						
第4回	教材研究 1			先行研究をもとに、教材を分析する						ディスカッション
第5回	教材研究 2			先行研究をもとに、教材を分析する						ディスカッション
第6回	学習指導案作成 1			学習指導案を作成する						ディスカッション
第7回	学習指導案作成 2			学習指導案を作成する						ディスカッション
第8回	学習指導案作成 3			学習指導案を作成する						ディスカッション
第9回	模擬授業および検討会 1			「走れメロス」（第1時）の模擬授業および検討会						模擬授業・討議
第10回	模擬授業および検討会 2			「走れメロス」（第2時）の模擬授業および検討会						模擬授業・討議
第11回	模擬授業および検討会 3			「走れメロス」（第3時）の模擬授業および検討会						模擬授業・討議
第12回	模擬授業および検討会 4			「走れメロス」（第4時）の模擬授業および検討会						模擬授業・討議
第13回	模擬授業および検討会 5			「走れメロス」（第5時）の模擬授業および検討会						模擬授業・討議
第14回	模擬授業および検討会 6			「走れメロス」（第6時）の模擬授業および検討会						模擬授業・討議
第15回	まとめ			この授業のまとめをする						
授業方法(アクティブラーニング等)	PBL(問題解決型学習)	グループワーク	ペアワーク	発表、ポスター作成	授業中のノート取り	リフレクションシート				
評価方法及び評価基準	模擬授業50点、学習指導案50点									
課題等	適宜指示します。									
事前事後学修	※教科教育法Ⅰ-1(国語)、教科教育法Ⅰ-2(国語)を履修済みであることが望ましい。未履修の場合は、それらの授業で指定されているテキストを予習として読んでおくこと。									
教科書参考書	<p>【教科書】教育出版「伝え合う言葉 中学国語2」</p> <p>【参考書】文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」978-4-491-03470-6</p> <p>【参考書】文部科学省「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編」978-4-491-03640-3</p> <p>【参考書】山元隆春ほか編著『国語科重要用語事典』明治図書、2015、978-4-18-190618-4</p>									
留意点	双方向的な形態を採用していますので、学生からの質問は大いに歓迎します。									

科目名	教科教育法ⅡB(国語)		科目ナンバリング	T-TLJA3-03. NJ	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L10077		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	今村 かほる、田中 拓郎			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(中学国語)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>・中学校「書くこと」の領域における授業を構想し模擬授業を行うことで、国語科教育授業実践のあり方について理解を深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>・中学校「書くこと」の領域における学習指導案を作成し模擬授業を行うことを通して、国語科教育授業実践のあり方について理解を深めることができる。</p> <p>・授業を構成する指導案の意図・工夫・観点などを理解すると共に、それに基づく授業を観察し、評価することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			授業内容の説明						
第2回	中学校の授業構想及び学習指導案の作成の仕方			中学校の授業構想の仕方及び学習指導案作成におけるポイントについて理解する						
第3回	学習指導要領に基づいた高等学校の国語科授業			学習指導要領をもとに、高等学校に求められる国語科授業について理解する						
第4回	学習指導案の作成 1			班ごとに学習指導案を作成する				グループワーク・ディスカッション		
第5回	学習指導案の作成 2			班ごとに学習指導案を作成する				グループワーク・ディスカッション		
第6回	模擬授業と検討会 1			「構成を明確にして説明文を書く」(第1時)の模擬授業と検討会				模擬授業・討議		
第7回	模擬授業と検討会 2			「構成を明確にして説明文を書く」(第2時)の模擬授業と検討会				模擬授業・討議		
第8回	模擬授業と検討会 3			「構成を明確にして説明文を書く」(第3時)の模擬授業と検討会				模擬授業・討議		
第9回	模擬授業と検討会 4			「構成を明確にして説明文を書く」(第4時)の模擬授業と検討会				模擬授業・討議		
第10回	模擬授業と検討会 5			「構成を明確にして説明文を書く」(第5時)の模擬授業と検討会				模擬授業・討議		
第11回	模擬授業と検討会 6			模擬授業全体を通じた成果と課題についての検討を行う				グループワーク・ディスカッション		
第12回	中学校・指導案の理解と観察			聖愛中学校に出向き、指導案の検討と授業の観察を行う				グループワーク・ディスカッション		
第13回	中学校・研究協議会			授業の研究協議会を聖愛中学校の教諭を含め行う				グループワーク・ディスカッション		
第14回	高校・指導案の理解と観察			聖愛高等学校に出向き、指導案の検討と授業の観察を行う				グループワーク・ディスカッション		
第15回	高校・研究協議会			授業の研究協議会を聖愛高等学校の教諭を含め行う				グループワーク・ディスカッション		
授業方法(方法・75分・グループワーク等)	PBL(問題解決型学習)	グループワーク	ペアワーク	発表、ポスター作成	授業中のノート取り	リフレクションシート	実習、フィールドワーク			
評価方法及び評価基準	<p>・2～11回の授業のコメントペーパー(20点)</p> <p>・模擬授業(25点)</p> <p>・学習指導案(25点)</p> <p>・授業見学と授業評価(30点)</p>									
課題等	適宜指示します。第12回～第15回分はレポート課題を課す。									
事前事後学修	第12回から第15回の前後に、事前準備事後報告の時間を設定する。事前事後学習(課題・調べ学習)を週3時間程度必要とする									
教材教科書参考書	<p>【教科書】教育出版「伝え合う言葉 中学国語2」</p> <p>【参考書】文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」978-4-491-03470-6</p> <p>【参考書】「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編」978-4-491-03640-3</p> <p>【参考書】山元隆春ほか編著『国語科重要用語事典』明治図書、2015、978-4-18-190618-4</p>									
留意点	第12回から15回は、夏季休業中に実施する。詳細は掲示する。									

科目名	教育原理		科目ナンバリング	T-TLFU2-00. NKS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10082		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奥野 武志				授業 形態	講義	単独
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 本授業は、教職の道を志す者が、最低限理解しておくべき「教育」に関する先人の努力の成果を概観し全体像を把握するためのものである。具体的には、「教育」に関する理論や歴史の基礎について担当教員が講義を行った後、受講者がグループに分かれて意見交換を行い、代表者が前に出てグループで出した意見を発表する。さらに各自が気づいたことを文章化することを通して、現代の「教育」についての理解を深めていくことを目指す。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 教育の基本的概念を理解し、教育を成り立たせる諸要因との相互関係について説明できる。 2) 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、現代社会における教育課題を歴史的視点から説明できる。 3) 教育に関する様々な思想を理解し、現在の学校教育との関わりについて説明できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修						備考
第1回	ガイダンス			・授業の目的・概要・方法を理解し、教育とは何かについて考察する。						
第2回	発達という概念			・発達という概念を理解し、発達をめぐる問題について考察する。						
第3回	教育目的という概念			・教育目的という概念を理解し、教育目的のあり方について考察する。						
第4回	古代ギリシアの教育			・古代ギリシアの教育とソクラテス・プラトンの思想を理解し、現代の教育問題について考察する。						
第5回	宗教改革と教育			・宗教改革と教育の関係を理解し、宗教と教育の関係について考察する。						
第6回	コメニウスの教育理論			・コメニウスの教育理論を理解し、現代の教育問題について考察する。						
第7回	ルソーの教育理論			・ルソーの教育理論を理解し、現代の教育問題について考察する。						
第8回	フランス革命期の公教育構想			・コンドルセの公教育論を理解し、現代の公教育をめぐる問題について考察する。						
第9回	デューイの教育理論・発見学習			・デューイの教育理論と発見学習について理解し、現代の教育問題について考察する。						
第10回	マカレンコの教育理論			・マカレンコの教育理論を理解し、現代の教育問題について考察する。						
第11回	日本における近代学校教育制度の成立			・日本における近代学校教育制度の成立過程を理解し、現代の教育問題について考察する。						
第12回	教育勅語体制			・近代日本の教育勅語体制について理解し、現代の教育問題について考察する。						
第13回	大正・昭和戦前期の教育			・大正・昭和戦前期の教育の実態を理解し、現在の教育とのつながりについて考察する。						
第14回	戦後日本の教育改革			・戦後日本の教育改革について理解し、現在の教育とのつながりについて考察する。						
第15回	まとめ			・授業全体の総括						
授業方法(ゼミナール、グループワーク等)	グループワーク	誘導ディスカッション	発表、ポスター作成	まとめアクティビティ	リフレクションシート					
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み（グループワーク、振り返り）：50% ・まとめレポート：50% 									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は毎回の授業でグループ発表に対してコメントする。 ・振り返りはteamsを通じて提出する。 									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。 									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 湯川次義他『最新 よくわかる教育の基礎』学文社、2019年。(ISBN: 978-4762028700) 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画はあくまで予定である。参加学生の興味関心等に応じて授業内容が変わることがある。 									

科目名	教育史		科目ナンバリング	T-TLFU2-01.NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10083		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奥野 武志				授業 形態	講義	単独
	教員免許	選択								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 弘前市教育委員会『弘前市教育史』を輪読しながら疑問点を議論することを通して、東北屈指の学園都市・弘前がどのように形成されてきたのかを多角的な視点から理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 本学が位置する学園都市弘前の成り立ちについて説明できる。 2) 近代日本の教育の歴史について、地域の実態を踏まえて説明できる。 3) 広い視野から地域の歴史を考えることができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	ガイダンス			・ 本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明						
第2回	藩政時代の教育			・ 城下町弘前とその特質						
第3回	「学制」の実施と小学校の設立 (1)			・ 文部省の設置～学制の実施						
第4回	「学制」の実施と小学校の設立 (2)			・ 弘前の小学校～新しい子ども						
第5回	「学制」の実施と小学校の設立 (3)			・ 一番小学と二番小学～小学生徒心得						
第6回	「学制」の実施と小学校の設立 (4)			・ 小学の種別～小学課業表						
第7回	「学制」の実施と小学校の設立 (5)			・ 校地と校舎～学区取締						
第8回	「学制」の実施と小学校の設立 (6)			・ 学校維持費～祝賀						
第9回	「学制」の実施と小学校の設立 (7)			・ 時間割と席次～試験法と試験						
第10回	「学制」の実施と小学校の設立 (8)			・ 地方集合試験～亀甲小学創設						
第11回	「学制」の実施と小学校の設立 (9)			・ 含英女小学創設～就学状況						
第12回	「学制」の実施と小学校の設立 (10)			・ 「学区割」と「聯区割」の実施						
第13回	「学制」の実施と小学校の設立 (11)			・ 弘前の聯区割実施						
第14回	「学制」の実施と小学校の設立 (12)			・ 学事奨励～学田の実施						
第15回	「学制」の実施と小学校の設立 (13)			・ 弘前各小学の学田～白銀小学「朝陽」と改称						
授業方法(予 め ア ラ ン グ 等)	発表、ポスター作成	講演	ディスカッション							
評価 方法 及 び 評 価 基 準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・ 平常点：100% テキスト音読の出来・ディスカッションへの参加度を評価する。</p>									
課題 等	<p>・ テキストを読み進めていく上で浮かぶ疑問を積極的に出し合い、その場で議論する。</p>									
事前 事後 学修	<p>・ 事前学修：テキストを音読できるよう分からない言葉を調べておく。 ・ 事後学修：テキストを読み進めるなかで浮かんだ疑問について調べる。 事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>・ 教科書：弘前市教育委員会『弘前市教育史 上巻』（1975年、ISBN：なし）から必要部分をコピーして配布する。</p>									
留意 点	<p>・ 授業計画はあくまで予定である。参加学生の興味関心等に応じて授業内容が変わることがある。</p>									

科目名	教師論		科目ナンバリング	T-TLFU2-02. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10051		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奥野 武志			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>本授業では、当該回のテーマについて担当教員が講義を行った後、受講者がグループに分かれて意見交換を行い、代表者が前に出てグループで出した意見を発表する。さらに各自が気づいたことを文章化することを通して、教職という職業について様々な角度から考察する機会を受講者に提供するものである。教職について深く理解した上で、自らの職業として選択するかどうか受講者が判断できるようになることを目指す。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 公教育の意義を理解し、教職の社会的意義について説明できる。 2) 教職に求められる社会的役割について理解し、必要な資質能力について説明できる。 3) 教職の全体像を理解し、研修の意義と服務上・身分上の義務について説明できる。 4) 教職の諸課題を理解し、組織的に解決に取り組む必要性について説明できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			・本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明						
第2回	教師観の変遷			・教師観の歴史の変遷を理解し、理想の教師像について考察する。						
第3回	教員養成の歴史			・教員養成の歴史を理解し、教員養成のあり方について考察する。						
第4回	教員の職務の実際(1)			・学級指導の実例をもとに、担任業務の意義について考察する。						
第5回	教員の職務の実際(2)			・生徒指導の実例をもとに、生徒指導の意義について考察する。						
第6回	教員に求められる資質と能力			・教育活動の事例をもとに、教員に求められる資質と能力について考察する。						
第7回	学校の組織と運営			・学校の組織と運営について理解し、「チーム学校」のあり方について考察する。						
第8回	現代社会と教職(1)			・学校教育における国際化について理解し、今後の教職のあり方について考察する。						
第9回	現代社会と教職(2)			・学校教育における情報化について理解し、今後の教職のあり方について考察する。						
第10回	研修の意義			・研修制度について理解し、研修の意義について考察する。						
第11回	教職をめぐる諸問題			・教職についてどのようなことが課題とされているか理解し、今後の教職のあり方について考察する。						
第12回	教育改革の動き			・教育改革の現状について理解し、教育改革のあり方について考察する。						
第13回	教員の任用と服務			・教員の任用と服務についての規定を理解し、教員の服務のあり方について考察する。						
第14回	採用と選考			・教員採用と選考の流れを理解し、教員採用のあり方について考察する。						
第15回	まとめ			・授業全体の総括						
授業方法(ゼミナール、アクティブラーニング等)	グループワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	まとめアクティビティ	リフレクションシート					
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み(グループワーク、振り返り) : 50% ・まとめレポート : 50% 									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は毎回の授業でグループ発表に対してコメントする。 ・振り返りはteamsを通じて提出する。 									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。 									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は特に指定しない。毎回授業レジュメを配布し、参考書等を適宜紹介する。 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画はあくまで予定である。参加学生の興味関心等に応じて授業内容が変わることがある。 									

科目名	教育制度論		科目ナンバリング	T-TLFU2-03. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10086		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	大野 拓哉				授業 形態	講義	単独
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 「教育」と「法」という、一見馴染みにくそうな関係にあって、「法」はどのように「教育」に関わり、どのように「教育」という営為を捉え、支えているかを考える。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	日本国憲法をはじめ、重要な教育法規に関して、その概要をつかみ、その要点を理解することを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	教育に関する法の概観			教育関係の法の体系を学ぶ						
第2回	日本国憲法①			日本国憲法26条「教育を受ける権利」「教育を受けさせる義務」						
第3回	日本国憲法②			日本国憲法23条「学問の自由」ほか						
第4回	子どもの権利条約			子どもの権利条約2条1項、3条1項、7条1項、13条ほか						
第5回	教育機関に関する規定①			学校の設置						
第6回	教育機関に関する規定②			学校の目的と編成						
第7回	教育機関に関する規定③			学校評議員制度と学校運営協議会						
第8回	教育課程に関する規定①			教育課程と学習指導要領、教科書						
第9回	教育課程に関する規定②			出欠席の管理、学年、学期						
第10回	児童・生徒等の就学に関する規定①			就学の権利と義務						
第11回	児童・生徒等の就学に関する規定②			生徒指導						
第12回	児童・生徒等の就学に関する規定③			学校における保健と安全						
第13回	教育職員に関する規定			免許、服務、分限、懲戒等						
第14回	教育行政・財政に関する規定			教育行政の組織、教育財政の仕組み						
第15回	総括			まとめと振り返り						
授業方法(ゼミナール、グループワーク等)	グループワーク									
評価方法及び評価基準	試験のみを評価の対象とする									
課題等	特になし									
事前事後学修	特に事後学修に関して、ノートの整理や支持された文献の参照などを行うこと									
教材教科書参考書	高見茂・開沼太郎・宮村裕子編『教育法規スタートアップVer. 3.0』ISBN:978-4812215098 昭和堂									
留意点	教育六法等を常に教室に持参すること。随時、グループワークやディスカッションを行う									

科目名	教育心理学		科目ナンバリング	T-TLFU2-04. NKN	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10052		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	山本 尚樹			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 この授業では教育実践を念頭に置きながら人の発達と学習のメカニズムと、両者の関係を概説していきます。特に、「言語」をはじめとする人の心の能力の発達の道筋と、学習過程に関する心理学の理論や研究を紹介していきます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 発達と教育の関係を理解する。 2) 「言語」「認知」「数概念」などのコミュニケーションの基盤となる心的能力の発達過程の道筋と学習プロセスを理解する。 3) 「記憶」や「問題解決」「動機づけ」「条件づけ」など学習の基盤となる要素の発達過程やメカニズムについて理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	ガイダンス			授業全体の概要や履修上の注意点を説明する。						
第2回	発達と教育			“氏か育ちか”論争を軸に、発達と教育（学習）の関係について概説する。						
第3回	認知の発達			乳幼児期から小学校高学年、中学生までの認知の発達過程について概説する。						
第4回	言語の発達			言語について、乳幼児期からの発達過程とそのメカニズムについて学ぶ。						
第5回	数概念の発達と算数・数学の学習			数概念の発達について、算数・数学教育の研究事例から概説する。						
第6回	科学的認識・社会的認識の学習と教育			自然科学、社会科学教育に関わる抽象的概念の発達について説明する。						
第7回	記憶と文章理解			記憶や文章理解のメカニズムを軸に、知識の獲得過程について概説する。						
第8回	推理と問題解決			我々がどのように問題解決を行い、また推理をするのか、そのメカニズムを概説する。						
第9回	学習と条件づけ			学習過程の基本的な心理メカニズムと考えられる条件づけについて概説する。						
第10回	動機づけ			教育と強いかわりのある動機づけに関する心理学の知見を概説する。						
第11回	個人差と学習指導法			学習に関する個人特性と、それにたいする指導法について概説する。						
第12回	授業における教授・学習過程			授業という形態が知識の教授・学習過程にどのように関わるか概説する。						
第13回	コンピューターによる学習指導			コンピューター利用のシステムの開発研究をたどり、その学習指導方法について検討する。						
第14回	教育的評価			学習の結果、性格などの個人属性についてどのような評価方法があるのか学ぶ。						
第15回	まとめとふりかえり			授業全体について総括、補足する。						
授業方法(予 定)等	資料記入	リフレクションシ ート								
評価 方法 及び 評価 基準	平常点（授業の参加態度、コメントペーパーなど）40%、期末レポート60%									
課題 等	毎回コメントペーパーの執筆を課す。他、期末レポートを課す。									
事前 事後 学修	事前学習について、授業前にシラバスに書いてある主題について各自文献などで調査しておくこと。また、毎回の授業をノートを取り、事後学習として復習を行うこと。									
教材 教科書 参考書	* 毎回の授業内容を記載したプリントは毎回配布する。その他、参照してほしい文献などがある場合適宜指示する。									
留意 点	特になし									

科目名	特別な教育的ニーズの理解とその支援		科目ナンバリング	T-TLFU2-05. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10087		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	川村 泰弘 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>通常の学級にも発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等を有する、あるいは障害はないものの特別な教育的ニーズのある子どもたちがいる。本科目では、これらの子どもたちが、学校内外において達成感をもちながら意欲的に学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、彼らの学習上・生活上の困難を理解し、その教育的ニーズに応じて、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 特別な教育的ニーズのある児童生徒に関わる近年の制度上の動向を理解する。</p> <p>2. 特別な教育的ニーズのある児童生徒が抱える困難や支援方法を理解する。</p> <p>3. 児童生徒の教育的ニーズに応じた学校組織における協働的な取組について理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ノーマライゼーションの概念			ノーマライゼーションの理念とインクルーシブ教育システム誕生の歴史的経緯						
第2回	インクルーシブ教育			インクルーシブ教育システム構築に至る日本の教育制度の変遷						
第3回	特別支援教育			特殊教育と特別支援教育の相違点及び特別支援教育に関わる制度改正のポイント						
第4回	特別支援教育における支援とは			特別支援教育の場と教育・支援内容（通級による支援や自立活動等を含む）						
第5回	視覚障害・聴覚障害			視覚障害、聴覚障害に伴う生活及び学習上の困難と教育内容						
第6回	知的障害・肢体不自由・病弱			知的障害、肢体不自由及び病弱・身体虚弱の障害に伴う生活及び学習上の困難と教育内容						
第7回	LD（学習障害）			LD（学習障害）の特性と支援						
第8回	ADHD（注意欠陥多動性障害）			ADHD（注意欠陥多動性障害）の特性と支援						
第9回	ASD（自閉スペクトラム症）			ASD（自閉症スペクトラム症）の特性と支援						
第10回	貧困や母国語が異なる子どもたち			障害はないものの特別な教育的ニーズを有する子どもの特性と支援						
第11回	特別支援教育の校内体制			特別支援教育コーディネーターの役割と校内支援体制の構築						
第12回	個別の指導計画の活用			個別の指導計画等の作成の目的と活用方法						
第13回	保護者への対応			保護者との協力関係を構築するために必要な情報共有及び相談支援の基本						
第14回	連続性のある支援と関係機関との連携			多様な学びの場の提供と交流及び共同学習並びに、関係機関との連携による協働的な支援						
第15回	講義全体のまとめ			講義全体のまとめを行う。						
授業方法(ゼミナール・グループワーク等)	誘導ディスカッション	グループワーク	ペアワーク	ロールプレイング	資料記入	授業中のノート取り				
評価方法及び評価基準	レポート（40%）、試験（30%）、授業への参加度（30%）									
課題等	第3回目、第6回目、第9回目、第12回目の授業後に小レポートの課題を出す。小レポートは次の講義開始時に提出する。									
事前事後学修	事前：次回の授業内容のポイント、キーワード等を提示するので、関連する情報を調べておくこと。 事後：資料を見て授業を振り返り、疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。									
教材教科書参考書	教科書：随時、資料を配布する。									
留意点	授業で学んだ内容について、随時関連事項を調べるなどして理解を深めてください。									

科目名	教育課程とカリキュラム・マネジメント		科目ナンバリング	T-TLFU2-06. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10080		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奥野 武志			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>本授業では、学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義について担当教員が講義を行った後、受講者がグループに分かれて意見交換を行い、代表者が前に出てどのような意見が出たかを発表する。さらに各自が気づいたことを文章化することを通して、教育課程についての理解を深めていくことを目指す。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 教育課程・カリキュラムの概念と意義について説明できる。</p> <p>2) 教育課程編成の基本原則にもとづく編成方法について説明できる。</p> <p>3) 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握しマネジメントすることの意義について説明できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			・本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明						
第2回	教育課程とカリキュラム			・教育課程・カリキュラムの概念を理解し、今まで受けてきた学校教育について考察する。						
第3回	カリキュラムの類型論			・カリキュラムの諸類型の概念を理解し、それぞれの特徴について考察する。						
第4回	学習指導要領と教科書			・学習指導要領と教科書の法的位置づけを理解し、学校教育における位置づけについて考察する。						
第5回	学習指導要領の変遷 (1)			・1947年の作成後、1951年に改訂された学習指導要領の特徴を理解し、現代の教育と対比して考察する。						
第6回	学習指導要領の変遷 (2)			・1958年の官報告示後、1989年改訂に至るまでの学習指導要領の変遷について理解し、現代の教育と対比して考察する。						
第7回	学習指導要領の変遷 (3)			・1998・1999年改訂から現在に至るまでの学習指導要領の変遷について理解し、その課題について考察する。						
第8回	総合的な学習の時間の成果と課題			・総合的な学習の時間の事例について、その成果と課題について考察する。						
第9回	カリキュラムマネジメントの概念			・カリキュラムマネジメントの概念を、その歴史的背景とともに理解し、その特徴について考察する。						
第10回	カリキュラム・マネジメントの実例 (1)			・中学校におけるカリキュラムマネジメントの実例について、その意義と課題について考察する。						
第11回	カリキュラム・マネジメントの実例 (2)			・高等学校におけるカリキュラムマネジメントの実例について、その意義と課題について考察する。						
第12回	高等学校の多様な教育課程			・高等学校の多様な教育課程の実態を理解し、その意義と課題について考察する。						
第13回	教育課程の特例 (1)			・教育課程特例校・授業時数特例校・研究開発学校の各制度について理解し、その意義と課題について考察する。						
第14回	教育課程の特例 (2)			・学びの多様化校制度について理解し、その意義と課題について考察する。						
第15回	まとめ			・授業全体の総括						
授業方法(方法・手段・アセスメント等)	グループワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	まとめアクティビティ	リフレクションシート					
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み（グループワーク、振り返り）：50% ・まとめレポート：50% 									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は毎回の授業でグループ発表に対してコメントする。 ・振り返りはteamsを通じて提出する。 									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。 									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は特に指定しない。毎回授業レジュメを配布し、参考書等を適宜紹介する。 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画はあくまで予定である。参加学生の興味関心等に応じて授業内容が変わることがある。 									

科目名	道徳教育の理論と実践		科目ナンバリング	T-TLSP2-00. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	L10088		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奥野 武志				授業 形態	講義	単独
	教員免許(中免)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 学校における道徳教育の歴史を理解するとともに、指導案の作成や模擬授業を通して各自の道徳教育観を育むことを目指す。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 道徳教育の歴史を理解し、その課題について自分の言葉で説明できる。 2) 学校における道徳教育の実践的な指導力が身についている。 3) 道徳科の特性を踏まえた指導計画を立案し実践することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	ガイダンス			・ 本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明						
第2回	道徳教育の歴史 (1)			・ 教育勅語と修身教育						
第3回	道徳教育の歴史 (2)			・ 戦後教育改革と「道徳の時間」特設						
第4回	道徳教育の歴史 (3)			・ 道徳の教科化						
第5回	特別の教科道徳 (1)			・ 道徳教育の目標 道徳科の内容						
第6回	特別の教科道徳 (2)			・ 道徳科の指導 道徳科の評価						
第7回	授業案の構想			・ 指導案の相互検討						
第8回	模擬授業			・ 履修者による模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第9回	模擬授業			・ 履修者による模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第10回	模擬授業			・ 履修者による模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第11回	模擬授業			・ 履修者による模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第12回	模擬授業			・ 履修者による模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第13回	模擬授業			・ 履修者による模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第14回	模擬授業			・ 履修者による模擬授業 ・ 授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第15回	まとめ			・ 全体の総括						
授業方法(予 修、77分 ア ラ ン ク 等)	実習、フィールド ワーク	グループワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッ ション	まとめアクティビ ティ	リフレクションシー ト				
評価 方法 及び 評価 基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・ 授業への取り組み(グループワーク、振り返り) 50% ・ 模擬授業(指導案含む) 50%</p>									
課題 等	<p>・ 教師は毎回の授業でグループ発表や模擬授業に対してコメントする。 ・ 振り返りはオンラインteamsを通じて提出する。</p>									
事前 事後 学修	<p>・ 事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・ 事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>教科書・文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編』2018年 (ISBN: 978-4316300849)。</p>									
留意 点	<p>・ 授業計画はあくまで予定である。受講学生数等に応じて授業内容が変わることがある。</p>									

科目名	特別活動及び総合的な学習の時間指導法		科目ナンバリング	T-TLSP2-01.NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10089		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 学校の学級活動、生徒会活動、学校行事などが特別活動である。これらの活動が個人の「自律」と協働という2つの能力を向上させていくように教員・学校は配慮していきます。特別活動が個人と集団を比較すると、どちらかと言えば、集団に重心がおかれます。他方で、総合的な学習は、どちらかと言えば、個人の能力をより伸ばそうとするものです。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	個人と個人、個人と集団、集団と集団、小さな集団と大きな集団など様々な共同作業の中で、ちょう調整と対立が生じます。その中で、個人や集団はどのように考え・行動すべきか。その中心となる基本的な考えや行動について学んでいきます。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	本講義・展開方法・発表・レポートについて			発表は義務です。発表内容からレポートを仕上げてもらいます。						
第2回	特別活動と教育委過程			学習指導要領から特別活動の定義と目標を考察し、理解。						
第3回	特別活動の基本的性格			特別活動の基本的性格と教育的意義の理解。						
第4回	特別活動と各教科、道徳、総合的な学習時間との関連			特別活動と各教科、道徳、総合的な学習時間との関連で、最も重要な点は、目に見える活動を通じて3え、点数化や評価がしにくい部分の能力向上を目指していることの理解。						
第5回	学級活動（ホームルーム活動）・生徒会活動・学校行事とは何か			学級活動（ホームルーム活動）・生徒会活動学校行事長所と短所を考察し、理解。						
第6回	学級活動（ホームルーム活動）・生徒会活動・学校行事の関係と意義			「目に見える」・「目に見えない」視点から3つの活動の共通点を考察し、理解。						
第7回	総合的な学習とは何か			総合的な学習と各教科学習の違いとその意義の理解。						
第8回	総合的な学習の事例を学ぶ			総合的な学習と特別な活動の違いと共通点を考察し、理解。						
第9回	学生による発表（1）			指定された字数で、自らの経験を踏まえて自らの特別活動または総合的な学習の授業計画を作成して発表。					学生の発表に対する学生・教員の質問・意見	
第10回	学生による発表（2）			(1)の続き					同上	
第11回	学生による発表（3）			(2)の続き					同上	
第12回	学生による発表（4）			(3)の続き					同上	
第13回	学生による発表（5）			(4)の続き					同上	
第14回	学生による発表（6）			(5)の続き					同上	
第15回	まとめ			教員から気付いた点について						
授業方法(ゼミナール、グループ・ラーニング等)	学生が発表の中で何故に自らの特別活動や学級活動が強い思い出となったかについて発表し、討論する。									
評価方法及び評価基準	授業における発表は原稿用紙2枚分だが、提出のレポートは原稿用紙4枚分（100%）									
課題等	講義は、小学校・中学校・高校時代の経験を思い出しながら聞いて下さい。									
事前事後学修	日頃から、教育問題に関心を持ち、できれば新聞から、でなければ、テレビ、パソコン、スマホから教育問題について見たり、読んだりして下さい。									
教材教科書参考書	なし。									
留意点	なし。									

科目名	教育の方法と技術 (ICT活用を含む)		科目ナンバリング	T-TLSP2-02. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10093		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	佐藤 萬昭 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法の理論や授業における指導技術を学ぶ。 ・ICTを教育現場における児童生徒への指導にどのように活用するのかについて理解を深める。 <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解できる。 ・教育現場におけるICTの活用意義や理論について理解できる。 ・ICTを活用した学習指導や校務の実際とICTの環境整備について理解できる。 ・教育データの活用や教育情報セキュリティの重要性について理解できる。 ・情報活用能力を育成する意義および育成方法を身に付ける。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	ガイダンス			<ul style="list-style-type: none"> ・本科目の概要（科目の意義・目標、授業の進め方、評価の方法） ・現代社会におけるICTの役割 						ICTの活用
第2回	教育の現代化と教授理論			<ul style="list-style-type: none"> ・教授法の変遷 ・問題解決学習、プログラム学習及び発見学習の概要 						ICTの活用
第3回	情報や知識を提示・伝達する方法と技術			<ul style="list-style-type: none"> ・講義の概要と留意点 ・教科用図書を使い方 ・板書・レジュメ・参考資料の活用方法 						ICTの活用
第4回	学習意欲を引き出す工夫と授業技術			<ul style="list-style-type: none"> ・発問の種類と意義 ・調べ学習と話し合い学習の概要と留意点 ・教授組織や学習組織の諸形態 						ICTの活用
第5回	学習活動を評価する方法と技術			<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価の意義と目的 ・客観的評価と主観的評価の概要と留意点 						ICTの活用
第6回	教育現場におけるICTの役割と導入			<ul style="list-style-type: none"> ・教育現場におけるICTの活用意義 ・学校におけるICTの環境整備 ・外部との連携のあり方 						ICTの活用
第7回	デジタルコンテンツの活用			<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルコンテンツの概要 ・デジタルコンテンツの特性と活用方法 						ICTの活用
第8回	電子黒板の活用			<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用方法や活用場面 ・電子黒板の機能と活用方法 						ICTの活用
第9回	デジタル教科書の活用			<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書導入の背景 ・デジタル教科書の効果と活用方法 						ICTの活用 Webの活用
第10回	特別支援教育におけるICTの活用			<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用のメリットとデメリット ・ICTの活用推進における留意点 						ICTの活用
第11回	遠隔教育におけるICTの活用			<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業の方法（同時配信授業、オンデマンド授業など） ・遠隔授業の方法（遠隔交流授業、遠隔合同授業など） ・遠隔教育の接続形態の概要 						ICTの活用
第12回	教育ICTの活用事例			<ul style="list-style-type: none"> ・各機種における教育ICTの活用事例 ・中学校英語教育における電子黒板とデジタル教科書の活用事例 						ICTの活用
第13回	情報モラル教育			<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル教育の意義と進め方 ・情報モラル教育における教材の活用 						ICTの活用
第14回	校務の情報化とデータの活用			<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの校務への活用 ・学習指導や学習評価における教育データの活用 ・教育情報セキュリティの重要性 						ICTの活用
第15回	まとめ			<ul style="list-style-type: none"> ・本科目の内容の振り返り 						ICTの活用
授業方法(予 め学習、75分 アワーニング 等)	まとめアクティビ ティ	リフレクションシー ト	授業中のノート取り	クイズ、小テスト						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>平常点評価（40%）及び試験の結果（60%）を総合的に勘案して評価する。評価に際しては、主体的に講義に参加しているか、講義で学んだ知識を確実に自らのものとするので論理的かつ明晰な文章で記述できるか、の2点を重点的に評価する。</p>									
課題 等	<p>オンライン授業アプリにより適宜指示する。レポート課題はオンライン授業アプリにより提出する。</p>									
事前事 後学修	<p>2単位科目では週当たり3時間の授業外の学修内容が必要である。事前に配付された資料を踏まえて、授業内容について把握すること。授業で示された知識・技能や課題・問題について整理し、解決に努めること。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>【教科書】使用しない。適宜プリントを配布及びオンライン授業アプリで提示する。 【参考書】文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則篇』978-4827815801</p>									
留意 点	<p>質問等はオンライン授業アプリによる双方向的形態を採用する。日頃から教育のICT化に関わる様々な問題に関心を寄せ、自分なりの考えを持つように努める。</p>									

科目名	教育方法の理論と実践		科目ナンバリング	T-TLSP3-13. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L10091		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奥野 武志、山本 尚樹			授業 形態	講義	クラス分け	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 本演習は、次年度に教育実習を控えている3年生を対象に、教育方法の理論を理解した上で情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目的とするものである。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 教育方法の基礎的理論を理解している。 2) 教育の目的に適した指導技術を理解し、身につけている。 3) 情報機器を効果的に活用した授業を行うことができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備 考		
第1回	ガイダンス・教育方法の理論 (1)			・本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明 教育方法論の歴史的展開						
第2回	教育方法の理論 (2)			・教授・学習の諸理論						
第3回	情報機器の活用 (1)			・デジタル黒板や情報端末の使い方				本学図書館で実施		
第4回	情報機器の活用 (2)			・ロイロノートの使い方 基礎演習 招聘講師：長内 風太 (聖愛中学高等学校教諭)				11月1日 (土) 3限 集中講義		
第5回	情報機器の活用 (3)			・ロイロノートの使い方 実践演習 招聘講師：長内 風太 (聖愛中学高等学校教諭)				11月1日 (土) 4限 集中講義		
第6回	授業案の構想			・指導案の相互検討						
第7回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第8回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第9回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第10回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第11回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第12回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第13回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第14回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第15回	まとめ			・全体の総括						
授業方法(予 演習、グループ ワーク等)	実習、フィールド ワーク	グループワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッ ション	まとめアクティビ ティ	リフレクションシ ート				
評価 方法 及び 評価 基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・授業への取り組み(グループワーク、振り返り) 50% ・模擬授業(指導案含む) 50%</p>									
課題 等	<p>・教師は毎回の授業でグループ発表や模擬授業に対してコメントする。 ・振り返りはオンラインteamsを通じて提出する。</p>									
事前 事後 学修	<p>・事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>・教科書は特に指定しない。参考書等は適宜紹介する。</p>									
留意 点	<p>・授業計画はあくまで予定である。受講学生数等に応じて授業内容が変わることがある。なお、第4回・第5回「ロイロノートの使い方」は11/1(土)3・4限に集中講義を行う。</p>									

科目名	アクティブ・ラーニングの理論と実践		科目ナンバリング	T-TLSP2-04. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10081		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奥野 武志			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>講義とディスカッションを通してアクティブ・ラーニングの理論を身につけた上で、模擬授業を行う。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) アクティブ・ラーニングとは何かについて説明できる。</p> <p>2) アクティブ・ラーニングの観点にもとづく授業を実践できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			・本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明						
第2回	アクティブ・ラーニングとは何か (1)			・授業改革からアクティブ・ラーニングへ (教科書第1章)						
第3回	アクティブ・ラーニングとは何か (2)			・アクティブ・ラーニングへの移行 (教科書第2章)						
第4回	事例検討			・事例1~4 (教科書第3章)						
第5回	アクティブ・ラーニングの実践 (1)			・共有財産としての参加型アクティビティ (教科書第4章)						
第6回	アクティブ・ラーニングの実践 (2)			・アクティブラーニングが定着する条件 (教科書第5章)						
第7回	授業案の構想			・指導案の相互検討						
第8回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第9回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第10回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第11回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第12回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第13回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第14回	模擬授業			・履修者による模擬授業 ・授業に関するディスカッションと教員からのコメント						
第15回	まとめ			・授業全体の総括						
授業方法(アクティブラーニング等)	実習、フィールドワーク	グループワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	まとめアクティビティ	リフレクションシート				
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み (グループワーク、振り返り) 50% ・模擬授業 (指導案含む) 50% 									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は毎回の授業でグループ発表や模擬授業に対してコメントする。 ・振り返りはオンラインteamsを通じて提出する。 									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。 									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 渡部淳『アクティブ・ラーニングとは何か』岩波新書、2020年。(ISBN:978-4004318231) 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画はあくまで予定である。受講学生数等に応じて授業内容が変わることがある。 									

科目名	生徒指導論・進路指導論 (キャリア教育の理論及び方法を含む)		科目ナンバリング	T-TLSP2-05. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L10092		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 特に中学校・高校は、一般的に管理型の生徒指導を行ってきた。致し方の内面もあるが、これからの生徒指導は、教員には見えにくい生徒の能力を引き出す努力が重要である。そのためには何が必要なかを学生と共に考えていきます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	生徒から教員は何度も嫌な思いをさせられるが、それでも生徒から学ぼうという姿勢を忘れてはいけません。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	本講義の概要・展開方法・試験等の説明		8年間の私立女子高校の経験と政治学・行政学・教育学視点で説明し、理解。							
第2回	生徒個人としての課題とあいさつ (1)		夢あるいは具体的目標を持ち、このことを強く信じて生きていくことが自分を律し、そして能力を高めていきます。その基本があいさつであることを理解。					進路キャリア1-1・2・3		
第3回	進路と職業（キャリア教育） (2)		教員は、様々な職業についてその長所・短所をホームルーム等で少しずつ話していく。生徒が興味を持つきっかけを与えることで教員自身も学んでいくこと。					進路・キャリア2-1・2		
第4回	キャリア教育と学習 (3)		いわゆる学習も極めて重要だが、部活動や趣味友人関係においてコツコツと努力する習慣を身につけていくことも重要であることを生徒に常々伝えていきます。					進路キャリア3-1/2		
第5回	いじめのおきる背景		いじめのおきる背景を時代の違いにより特徴があることを理解。					生徒指導1-1-2		
第6回	いじめの社会的分析		いじめ問題は当事者のみならず、第三者が介入して強められることが多いことを理解。					生徒指導3-1		
第7回	西東の経験しいじめへの対応		高校の教員時代、人権教育の責任者と生徒指導部のメンバーだったことから、あるいじめ問題への対応責任者関わったこと。その時の過程と配慮すべきことの理解。					生徒指導3-2		
第8回	いじめ問題への個人として理解したことと、どのように対応すべきかについてワークショップ		初めの30分でいじめ問題への自分なりの理解を文章にまとめ、次の30分で教員になったとき、どのように対応すべきかについてワークショップを行い、最後にすべてのグループが発表。					生徒指導3-1・2・3		
第9回	性の問題と人権		生徒の性に関する知識や一般に外部情報や友人からの情報に影響を受けやすい。そうした情報に歪められない基本的な情報の理解。					生徒指導1-3		
第10回	掃除と生活態度		掃除は、教員も生徒と一緒にすることが重要。そのことを私も高校の教員時代に数年かけて理解ができたことを学生に伝える。					生徒指導1-3		
第11回	教員相互の指導体制の課題 (1) ホームルームと担任		学校の基盤は学級である。担任と生徒の地道なホームルームづくりによって、学級は形成されていきます。その際の担任の基本的考え方や行動についての理解。					生徒指導2-1-2		
第12回	(2) 担任と学年会議		学年は担任・副担任にとって学級を形成していく重要な補助組織。他学級の担任・副担任からの情報により、担当する学級の形成を考えていく。					生徒指導2-2-3		
第13回	人権への配慮と生徒指導部		生徒指導部の活動は、学校の隆盛形成に寄与する活動である。その際、対象となる生徒生徒への人権配慮を常に心がけることを理解。					生徒指導3-2-3		
第14回	「プロフェッショナル」としての教員の資質をどのようにのびすのか		5人ずつぐらいに分かれて、ワークショップを行います。30分までに終了して発表を行います。					生徒指導1-4, 3-2・3		
第15回	まとめと試験		まとめと試験					生徒指導3-2・3		
授業方法(付 録1、2、3 等)	いじめ問題について、自らの経験とどうすれば良いのかについて、グループ討議を行う。									
評価 方法 及び 評価 基準	第8回と14回にワークショップを行い、記録を取る (20%)。試験 (80%)									
課題 等	自らの中学校・高校時代を思い出しながら、この授業で学んだことと比較しながら考えていく。									
事前事後 学修	できれば、新聞で、できれば、テレビ、パソコン、スマホなどで、教育問題のニュースを見たり、読んだりして下さい。									
教材 教科書 参考書	教科書はありません。									
留意 点	なし。									

科目名	学校カウンセリング (教育相談を含む)		科目ナンバリング	T-TLSP2-06. NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L10065		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	新川 広樹			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>本講義では、教育相談に関わる理論および諸技法を学び、学校におけるカウンセリングマインドの有用性について理解を深め、対人援助職としての基本的態度を養うことを目的とする。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 教育相談に関わる理論および諸技法について説明できる</p> <p>2. 学校における教師-生徒関係を理解し、相談場面において適切な応答を選択できる</p> <p>3. 自己のコミュニケーションの特長と課題を客観視し、必要に応じて制御できる</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備 考	
第1回	オリエンテーション			教育相談の意義と課題を概説するとともに、授業の進め方について案内する。						
第2回	カウンセリングの基礎的知識			カウンセリングの理念および対人支援職としての倫理について解説する。						
第3回	カウンセリングの構造			カウンセリングの基本姿勢や相談しやすい対人的距離・環境づくりについて解説する。						
第4回	カウンセリングの諸技法			ロジャースの人間性心理学を中心としたカウンセリングの基本的技法について解説する。						
第5回	児童生徒のこころの理解			関連する心理学領域におけるさまざまな学校不適応のモデルについて概観する。						
第6回	心理アセスメントの方法			質問紙法や心理検査の活用方法および結果の解釈方法について解説する。						
第7回	情緒的問題に関する教育相談の実際			情緒的問題（抑うつやストレス反応を含む）の援助事例について紹介する。						
第8回	友人関係に関する教育相談の実際			友人関係の問題（いじめ・攻撃的行動を含む）の援助事例について紹介する。						
第9回	不登校に関する教育相談の実際			不登校（不安症やゲーム依存を含む）の援助事例について紹介する。						
第10回	学業不振に関する教育相談の実際			学業のつまづきに対する学習方略や動機づけ面接を用いた援助事例について紹介する。						
第11回	発達障害に関する教育相談の実際			問題行動を理解する枠組みや合理的配慮の視点に基づく援助事例について紹介する。						
第12回	家庭環境に関する教育相談の実際			保護者支援や虐待等に関する外部機関との連携について紹介する。						
第13回	予防的・開発的教育相談			すべての児童生徒を対象とする心理教育的援助サービスについて紹介する。					オンデマンド配信	
第14回	相談体制の整備と学校危機介入			校内におけるネットワーク構築や緊急支援時の対応について解説する。					オンデマンド配信	
第15回	コミュニティ・アプローチの実践事例			コミュニティ・アプローチの発想と多様な実践事例について紹介する。					オンデマンド配信	
授業方法(ゼミナール、グループワーク等)	ロールプレイング			ペアワーク						
	一部、Teams上でオンデマンド配信となる見込みです。									
評価方法及び評価基準	<p>○授業・グループワークへの参加状況20%、小レポート80%の割合で評価する。</p> <p>・授業・グループワークへの参加：授業中の質疑応答の様子や面接技法の演習に関する参加状況（発言・態度）により評価する。</p> <p>・レポートは400字程度×4回分（第1～4回、第5～8回、第9～12回、第13～15回）の内容により評価する。</p>									
課題等	講義内容に関するコメントを400字程度で作成してください。提出期限と提出方法は授業内で示します。									
事前事後学修	事前学習として、シラバスの各回の内容に関し、学校現場において何が課題となっているかについて情報を集め、イメージを膨らませておいて下さい。事後学習として、講義内容やワークを振り返り、自己のヘルピングスキルについて評価・内省を求めます。									
教材教科書参考書	授業内で適宜プリントを配布します。									
留意点										

科目名	教育実習(事前・事後の指導を含む)		科目ナンバリング	T-TLPR4-00. NK	単位数 時間	5単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年	
			科目コード	L10070		150時間					
区分	資格関係科目		担当者名	奥野 武志、山本 尚樹				授業 形態	実習	複数	
	教員免許	必修									
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 【キーワード：教育実習、現場体験】 中学校や高等学校で数週間教師として実習を行う。その前後に事前指導と事後指導があり、事前指導では、過去の教育実習で生じた出来事等をもとに留意事項を確認し、模擬授業などを通じて教育実習への準備を行う。事後指導においては、実習の反省、情報交換を行いながら現代の学校教育の課題についても考察する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>										
到達目標	<p>1) 事前指導 教育実習を円滑に行うことができる。 2) 事後指導 各自の実習体験の位置づけを俯瞰的な視野から説明できる。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	事前指導①	教育実習の意義と目的の確認				第16回	実習	教育実習			
第2回	事前指導②	学習指導案の検討				第17回	実習	教育実習			
第3回	事前指導③	模擬授業①				第18回	実習	教育実習			
第4回	事前指導④	模擬授業②				第19回	実習	教育実習			
第5回	事前指導⑤	模擬授業③				第20回	実習	教育実習			
第6回	実習	教育実習				第21回	実習	教育実習			
第7回	実習	教育実習				第22回	実習	教育実習			
第8回	実習	教育実習				第23回	実習	教育実習			
第9回	実習	教育実習				第24回	実習	教育実習			
第10回	実習	教育実習				第25回	実習	教育実習			
第11回	実習	教育実習				第26回	実習	教育実習			
第12回	実習	教育実習				第27回	実習	教育実習			
第13回	実習	教育実習				第28回	事後指導①	教育実習の成果と課題について議論する			
第14回	実習	教育実習				第29回	事後指導②	教育実習報告会			
第15回	実習	教育実習				第30回	事後指導③	まとめ			
授業方法(学びの場づくり)	実習、フィールドワーク	グループワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション							
評価方法及び評価基準	事前・事後指導における取り組みと教育実習校返送評価点を総合的に勘案して評価する。特に、教育実習に自ら主体的に取り組んでいるかどうか、実習生として相応しい見識と能力を身につけているかどうか、の2点を重点的に評価する。										
課題等	授業で指示する。										
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。 										
教材教科書参考書	教育実習ファイル（事前指導初回に配布）										
留意点	事前指導、事後指導に正当な理由なく欠席すると、単位を認定しないので注意すること。										

科目名	教職実践演習(中・高)		科目ナンバリング	T-TLPR4-01.NK	単位数 時間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
			科目コード	L10073		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奥野 武志、山本 尚樹、佐藤 萬昭			授業 形態	演習	オムニバス	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>教員免許状の取得に必要なとなる教科に関する科目、教職に関する科目等を履修し終えた段階において、これらの知識・技能を総合して、学校において生じる諸問題に対処できる力を養う。その際、それぞれの場面において特に求められる力を確認すると同時に、教員として持たなければならない知識・技能・態度等が確実に習得されているかどうかを確認し、これまで習得した知識・技能・態度等の総合化を図る。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 教職課程を通じて学んだことを言語化し、自身の今後の課題について説明できる。</p> <p>2) 常に成長し続けることの意義を理解して実践することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			<ul style="list-style-type: none"> ・本授業の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明 ・教育原理等で学んだことと今後の課題 					担当：奥野/山本	
第2回	教職課程で学んだことと今後の課題①			<ul style="list-style-type: none"> ・教育制度論等で学んだことと今後の課題 					担当：奥野	
第3回	教職課程で学んだことと今後の課題②			<ul style="list-style-type: none"> ・教育心理学等で学んだことと今後の課題 						
第4回	教職課程で学んだことと今後の課題③			<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動及び総合的な学習の時間指導法等で学んだことと今後の課題 						
第5回	教職課程で学んだことと今後の課題④			<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導法等で学んだことと今後の課題 						
第6回	ICT授業の実際 ①			<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノート活用法 基礎演習 招聘講師：長内 風太（聖愛中学高等学校教諭） 						
第7回	ICT授業の実際 ②			<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノート活用法 実践演習 招聘講師：長内 風太（聖愛中学高等学校教諭） 						
第8回	学級経営の実際 ①			<ul style="list-style-type: none"> ・学級開きと最初の一週間の取組について（講義、演習） 					担当：佐藤 10/18（土）実施	
第9回	学級経営の実際 ②			<ul style="list-style-type: none"> ・学級開きについて構想を練る（演習、全体発表） 						
第10回	生徒指導の実際 ①			<ul style="list-style-type: none"> ・いじめへの対応について（講義、演習） 					担当：佐藤 10/25（土）実施	
第11回	生徒指導の実際 ②			<ul style="list-style-type: none"> ・いじめへの対応について考える（演習、全体協議） 						
第12回	教育実践上の課題①			<ul style="list-style-type: none"> ・授業準備や教材、授業実践について検討する（演習） 					担当：山本	
第13回	教育実践上の課題①			<ul style="list-style-type: none"> ・授業準備や教材、授業実践について検討する（演習） 						
第14回	教育実践上の課題①			<ul style="list-style-type: none"> ・授業準備や教材、授業実践について検討する（演習） 						
第15回	総括			<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動を通じて教師にとって必要なことを各自考え発表する ・教職履修ファイル「自己評価」欄の記入 					担当：奥野/山本	
授業方法(フ ィールド、フ ィールド、フ ィールド等)	実習、フィールド ワーク	グループワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッ ション	まとめアクティビ ティ					
評価 方法 及び 評価 基準	各担当者により出される課題の達成度 100%									
課題 等	各担当者より適宜掲示にて指示する									
事前 事後 学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。 									
教材 教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職履修ファイル」 ・各受講者の免許種に対応した学習指導要領（最新版）及び同解説（最新版） 									
留意 点	教職課程最後の科目となる。「教職履修ファイル」を基に、これまでの教職課程の内容及び教育実習の内容をよく振り返ったうえで受講すること。なお、第6回・第7回（ロイロノート活用法）は11月29日（土）3・4限、第8回・第9回（佐藤担当）は10月18日（土）3・4限、第10回・第11回（佐藤担当）は10月25日（土）3・4限に集中講義として実施する。									

科目名	障害者教育論		科目ナンバリング	W-KYT01-01.	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L50059		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	川村 泰弘 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 障害のある幼児児童生徒の学校教育の歴史の変遷をたどるとともに、特別支援教育に関する制度的事項について基礎的な知識を身に付け、関連する課題を理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 特別支援学校及び特別支援教育の歴史の変遷について説明できる。 2 特別支援教育の理念と特別支援教育制度に関する基本的事項について説明できる。 3 障害特性や各障害種別の教育課程について説明できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	特別支援教育の理念		<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育とインクルーシブ教育システム 特別支援教育制度における特別支援学校が有する機能・役割 						オンデマンド授業	
第2回	特別支援教育の歴史		<ul style="list-style-type: none"> 日本及び世界における障害児教育の変遷 現代社会における特別支援学校の教育課題 							
第3回	特別支援教育の思想		<ul style="list-style-type: none"> 障害のある幼児児童生徒に関わる教育の思想 特別支援学校や学習に関わる教育の思想 							
第4回	特別支援教育に関する社会的事項		<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校を巡る指導上の課題と特別支援教育施策の動向 							
第5回	特別支援教育に関する制度		<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校の目的及び教育目標と国が定めた教育課程の基準との相互関係 							
第6回			<ul style="list-style-type: none"> 自立活動、知的障害特別支援学校の教科、重複障害者等に関する教育課程の取り扱い 							
第7回	特別支援学校の経営		<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校の目的や教育目標を実現するための学校経営 							
第8回			<ul style="list-style-type: none"> 幼児児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた学級経営 							
第9回			<ul style="list-style-type: none"> 幼児児童生徒の社会参加を目指した学校内外の連携・協働 							
第10回	視覚障害・聴覚障害教育の理解		<ul style="list-style-type: none"> 視覚・聴覚特別支援学校を巡る近年の状況の変化及び幼児児童生徒の生活の変化を踏まえた指導上の課題 							
第11回	知的障害教育の理解		<ul style="list-style-type: none"> 知的障害特別支援学校を巡る近年の状況の変化及び幼児児童生徒の生活の変化を踏まえた指導上の課題 							
第12回	肢体不自由・病弱教育の理解		<ul style="list-style-type: none"> 肢体不自由・病弱特別支援学校を巡る近年の状況の変化及び幼児児童生徒の生活の変化を踏まえた指導上の課題 							
第13回	重複障害教育の理解		<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校における重複障害者の現状及び幼児児童生徒の生活の変化を踏まえた指導上の課題 							
第14回	発達障害教育の理解		<ul style="list-style-type: none"> 学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症の理解と教育における取組 							
第15回	小中高等学校における特別支援教育		<ul style="list-style-type: none"> 小中高等学校における特別支援教育の取組と指導上の課題 							
授業方法(オンデマンド、ライブ・ラーニング等)	誘導ディスカッション	グループワーク	ペアワーク	資料記入	授業中のノート取り					
	第1回目の授業はオンデマンドで行う。講義5回目開始までの間にオンラインで学習し、講義内容をレポートにまとめて提出する。									
評価方法及び評価基準	レポート(40%)、試験(30%)、授業への参加度(30%)									
課題等	第4回目、第9回目、第13回目の授業後に小レポートの課題を出す。小レポートは次の講義開始時に提出する。									
事前事後学修	事前：次回の授業内容のポイント、キーワード等を提示するので、関連する情報を調べておくこと。 事後：資料を見て授業を振り返り、疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。									
教科書参考書	<p>教科書：随時、資料を配布する。 参考書：特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 ISBN:978-4303124243 特別支援学校高等部学習指導要領 ISBN:978-4303124274 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部) ISBN:978-4304042294 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部) ISBN:978-4304042317 特別支援学校学習指導要領解説 総則編(高等部) ISBN:978-4863715257</p>									
留意点	授業で取り扱った内容について、随時参考書を読んで理解を深めてください。									

科目名	知的障害者の心理 I		科目ナンバリング	W-KYT02-02.	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L50060		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	西沢 勝則 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>知的障害の概念及び知的障害児・者の心理・病理・生理に関する基本的事項を理解し、指導・支援を検討するための知識・技能を修得することを目指す。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>心身の発達、心理機能の基本的理解を行い、知的障害のアセスメント方法やその課題等についても理解する。知的障害者一般についての特性を理解したうえで、個人ごとの特性に応じた具体的な指導のヒントを検討できるようになる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	知的障害の捉え方			障害概念と知的障害概念の変遷						
第2回	知的障害の理解			知的障害の要因となる病理面及び合併症の特徴						
第3回	知的障害の理解			知的障害に見られる心理面及び生理面の特徴						
第4回	心理アセスメント			心理アセスメントの目的と方法、検査者の資格						
第5回	多面的な理解			心理検査の種類、情報共有の在り方						
第6回	知的機能のアセスメント			知能検査の種類と特徴、ウェクスラー式、ビネー式等						
第7回	知的障害の感覚・知覚			感覚・知覚機能の基礎、感覚、知覚、認知、視知覚						
第8回	知的障害の視知覚機能			視知覚機能の特徴と指導上の配慮						
第9回	知的障害の運動機能と運動発達			運動機能の発達と運動・スポーツ、不器用さ						
第10回	運動機能の課題と指導の工夫			運動機能改善における指導の工夫						
第11回	生涯教育としての運動			日常生活場面、スポーツにおける運動機会						
第12回	知的障害と学校・学習			インクルーシブ教育、オペラント条件付け、見本合わせ法						
第13回	学習指導の工夫			課題分析、ICTの活用						
第14回	知的障害の指導における課題			レポート作成及び発表						
第15回	まとめ			理解度チェックとまとめ						
授業方法(予 定外、70分 ア・ラウンド 等)	授業中のノート取り、リフレクションシート									
評価 方法 及び 評価 基準	定期試験(30%)、授業への参加度(40%)、レポート(30%) 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。									
課題 等	講義で取り上げた内容から、各自テーマを選びレポートすることを課題とする。									
事前 事後 学修	知的障害の特徴について理解を深めるためにも、一般的な発達について学ぶこと。									
教材 教科書 参考書	参考書 小池敏英・北島善夫 著 知的障害の心理学—発達支援からの理解— 北大路書房 2001 ISBN978-4-7628-2215-5									
留意 点	小レポートは必要なコメントを付して次回講義時に返却する。									

科目名	知的障害者の心理Ⅱ		科目ナンバリング	W-KYT03-03.	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L50061		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	西沢 勝則 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>知的障害児・者の行動類型、パーソナリティ、社会性や対人関係、コミュニケーションなどを問題として考える。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>知的障害児・者の行動特性、集団への参加と家庭生活や学校生活への適応、コミュニケーションの問題を理解し、その基礎となっている社会性や対人関係、言語能力などの発達を考慮して指導の工夫ができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	パーソナリティと情動特性			パーソナリティ特性や情動的特性						
第2回	知的障害児の行動特徴			行動特徴、「硬さ」概念の再検討						
第3回	動機づけ			パーソナリティ及び動機づけに影響する要因						
第4回	社会性と対人関係			社会性・対人関係の基礎、共同注意、心の理論						
第5回	集団生活への参加			乳幼児期の人間的ふれあい、集団生活への参加						
第6回	自閉症児の情動理解			顔や視線への感受性、情動理解の特徴						
第7回	言語発達の基礎			言語獲得の流れ、理解と表出、						
第8回	非言語的コミュニケーション			非言語的意思表現、サイン言語による意思伝達の方法						
第9回	言語的コミュニケーション			音声知覚の発達、話し言葉・文字による意思表現の方法						
第10回	幼児期のアセスメント			活動を通じたアセスメント、心理的道具としての絵本						
第11回	絵本の構造と発達順序性			母子活動と絵本の構造、物語理解の発達順序性						
第12回	言語コミュニケーションの機能			社会的相互作用、フォーマット、スクリプト						
第13回	コミュニケーションの指導			社会的文脈、ルーティン、インリアル指導、						
第14回	指導上の課題と提案			レポート作成及び発表					発表	
第15回	まとめ			理解度チェックとまとめ						
授業方法(付 録D、7頁 参照)	授業中のノート取り、リフレクションシート									
評価 方法 及び 評価 基準	定期試験(30%)、授業への参加度(40%)、レポート(30%) 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。									
課題 等	講義で取り上げた内容から、各自テーマを選びレポートすることを課題とする。									
事前 事後 学修	講義内容に関連した具体的な事例に接する機会を設けるように努めること。									
教材 教科書 参考書	参考書 小池敏英・北島善夫 著 知的障害の心理学—発達支援からの理解— 北大路書房 2001 ISBN978-4-7628-2215-5									
留意 点	小レポートは必要なコメントを付して次回講義時に返却する。									

科目名	肢体不自由者の心理・生理・病理		科目ナンバリング	W-KYT02-04.	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	L50062		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	西沢 勝則 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 肢体不自由児・者の生理・病理について脳性まひを中心に概説し、その運動障害、行動と心理特性について触れ、学習上や生活上の困難を克服・改善するための対応について検討する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	肢体不自由は四肢体幹の永続的な障害をいうが、中枢神経系の障害である脳性まひ及び骨関節等の障害に関する生理・病理や行動、心理について学び、自立活動の充実など教育の在り方を考える基礎を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備 考	
第1回	オリエンテーション 肢体不自由の概念と就学措置			授業の内容と進め方の説明、肢体不自由の語源と定義、障害の特性、高木憲次						
第2回	肢体不自由教育の歴史			肢体不自由教育の歴史、今日的課題						
第3回	運動機能の発達と障害			運動機能の発達、原始反射、歩行の獲得						
第4回	肢体不自由をもたらす疾患			脳性まひの運動・動作、身体の動き						
第5回	肢体不自由をもたらす疾患			二分脊椎、関節疾患、骨形成不全、進行性疾患						
第6回	障害の理解の方法			障害の一般的理解、個人の事例としての理解						
第7回	重複障害			実態把握、重度・重複障害児、健康の保持						
第8回	重複障害児の対人相互交渉			対人相互交渉の捉え方						
第9回	重度・重複障害児			重度・重複障害児の特性、指導に必要な工夫と配慮						
第10回	肢体不自由児の自立活動			自立活動の計画、課題・内容の設定、評価の視点						
第11回	肢体不自由児の自立活動			生活上の課題、学習上の課題、ポジショニング、教材・教具						
第12回	肢体不自由児の心理			肢体不自由児の社会性、コミュニケーション、認知・思考						
第13回	肢体不自由児の心理			肢体不自由児の心理・行動上の困難、障害受容、ADL						
第14回	肢体不自由教育の課題			肢体不自由教育の課題と考え方					発表	
第15回	まとめ			理解度チェックとまとめ						
授業方法(予 定外、77分 ア・ラ・コフ 等)	授業中のノート取り リフレクションシー ト									
評価 方法 及び 評価 基準	定期試験(30%)、授業への参加度(40%)、レポート(30%) 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。									
課題 等	毎回の小レポートのほか、自分で選んだテーマについてレポートを提出する。									
事前事 後学修	各回の内容に応じて、関連する情報を各自整理すること。									
教材 教科書 参考書	参考書 川間健之介 長沼俊夫 著 肢体不自由児の教育〔新訂〕放送大学教育振興会 2020 ISBN978-4-595-32171-9									
留意 点	小レポートは必要なコメントを付して次回講義時に返却する。									

科目名	病弱者の心理・生理・病理		科目ナンバリング	W-KYT02-05.	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L50063		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	西沢 勝則 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 病弱とは、慢性疾患等のために継続して医療や生活規制を必要とする状態である。原因となる病気の種類も多様である。主な病気の概要と、生活規制や行動制限のある場合の対応、そして心理的側面への配慮などについて概説する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	病弱の原因となる主な病気の概要や病弱児の心理的社会的な困難を理解し、病弱児の病気対処行動や学習上の課題等を克服・改善のための指導の在り方を考えることができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション、病弱の概念			授業の内容と進め方の説明、病弱の概念						
第2回	病弱教育の捉え方			病弱教育に関する体験やイメージ						
第3回	病弱教育の変遷・教育課程			病弱教育の歴史、教育の内容、教育の方法						
第4回	病弱児の心理			病弱児の心理理解の視点						
第5回	主な病気の概要と教育支援			小児がん：白血病						
第6回	主な病気の概要と教育支援			アレルギー疾患：ぜん息						
第7回	主な病気の概要と教育支援			糖尿病						
第8回	主な病気の概要と教育支援			てんかん						
第9回	主な病気の概要と教育支援			精神性疾患						
第10回	病弱教育における情報化			病弱教育における情報化の意義と課題						
第11回	キャリア教育			キャリア教育の背景、病弱児の社会的自立とは						
第12回	病弱児と医療的ケア			重複障害児の実態把握、医療的ケア、自立活動の内容						
第13回	教育と医療・福祉等との連携			病弱児に関係する諸制度、多職種連携の在り方						
第14回	病弱児教育上の課題			課題の把握と今後の学習テーマ					発表	
第15回	まとめ			理解度チェックとまとめ						
授業方法(予 定)等	授業中のノート取り、リフレクションシート									
評価 方法 及び 評価 基準	定期試験(30%)、授業への参加度(40%)、レポート(30%) 毎回、講義内容に関する小レポートを提出することで、習得状況を確認する。									
課題 等	毎回の小レポートのほか、自分で選んだテーマについてレポートを提出する。									
事前事 後学修	準備学習時間の目安：1日当たり30分以上。課題発表担当の場合は1回につき準備時間2時間以上。									
教材 教科書 参考書	参考書 日本育療学会編著 標準「病弱児の教育」テキスト【改訂版】 ジアース教育新社 2022 ISBN978-4863716186									
留意 点	小レポートは必要なコメントを付して次回講義時に返却する。									

科目名	知的障害者教育論		科目ナンバリング	W-KYT02-06.	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L50064		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	山崎 誠悦			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>特別支援学校教諭免許状取得に必要な履修科目である。知的障害教育に関する基礎的内容を解説する。知的障害特別支援学校及び知的障害特別支援学級における指導にあたり、児童生徒の心理的特性や学習上の特性、教育課程の編成、教育内容、指導方法等について解説する。知的障害のある児童生徒の自立と社会参加をめざす教育活動を進めていく上での基本的な問題について検討する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>(1) 知的障害教育の対象や就学先決定の仕組みと手続きについて理解する。</p> <p>(2) 知的障害のある児童生徒の心理的特性及び学習上の特性について理解する。</p> <p>(3) 知的障害特別支援学校及び知的障害特別支援学級における教育課程、指導内容、指導方法について理解する。</p> <p>(4) 知的障害教育における指導に関する基礎的・基本的事項や指導上の留意事項について理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション 知的障害教育の歴史(1)			各回の授業内容と進め方及び本授業の評価方法について説明する。欧米における知的障害の問題成立から知的障害教育の成立・発展過程を概観し、欧米における知的障害のある児童生徒に対する教育の変遷についての理解を深める。					講義	
第2回	知的障害教育の歴史(2)			日本における知的障害教育の成立・発展過程を概観する。今日の知的障害教育の現状と課題について考察する。					講義	
第3回	知的障害の定義・原因・発見			世界保健機関や米国における知的障害の定義及び分類を概説するとともに、日本における知的障害の定義について理解を深める。					講義	
第4回	知的障害のある児童生徒の心理的特性			知的障害のある児童生徒の障害の程度による身体面及び運動面、知覚面、行動面等の状態像や基本的心理特性について理解を深める。					講義	
第5回	就学先決定のあり方と教育の場			障害のある子どもの就学先決定の仕組みと手続きを解説し、知的障害のある児童生徒の就学先決定のあり方について理解を深める。					講義	
第6回	知的障害特別支援学校における教育課程の編成			知的障害特別支援学校の小学部・中学部・高等部の特徴的な教育課程の編成について理解を深める。					講義	
第7回	知的障害教育における指導の基礎的・基本的事項			知的障害のある児童生徒個々に応じた指導・支援のあり方に関して解説する。個々の教育的ニーズに即応した指導の基礎的・基本的事項について理解を深める。					講義	
第8回	知的障害教育における指導の形態 各教科等を合わせた指導(1)			知的障害特別支援学校における指導形態として日常生活の指導と遊びの指導を取り上げ、指導のねらいや指導内容、指導計画の作成、指導上の留意点について理解を深める。					講義	
第9回	知的障害教育における指導の形態 各教科等を合わせた指導(2)			各教科等を合わせた指導として生活単元学習を取り上げ、指導のねらいや指導内容、指導計画、指導上の留意点について理解を深める。					講義	
第10回	知的障害教育における指導の形態 各教科等を合わせた指導(3)			各教科等を合わせた指導として作業学習を取り上げ、指導のねらいや指導内容、指導計画、指導上の留意点について理解を深める。					講義	
第11回	知的障害教育における指導の形態 教科別の指導			知的障害のある児童生徒の学習上の特性及び教科指導と教育課程との関連、指導上の留意点について解説する。知的障害特別支援学校における各教科の指導事例を紹介し、教科別の指導について理解を深める。					講義	
第12回	知的障害教育における指導の形態 自立活動の指導			知的障害特別支援学校の自立活動の目標や指導内容、指導計画の作成と内容の取り扱いについて解説をする自立活動の指導方法・指導上の留意点について理解を深める。					講義	
第13回	知的障害特別支援学級の学級経営及び指導の実際			知的障害特別支援学級の学級経営について解説する。各教科等の指導にあたり、指導計画の作成・指導上の留意点について理解を深める。					講義	
第14回	交流及び共同学習			交流及び共同学習の意義や学習の形態・内容・実施計画・実施上の留意点・評価等について解説する。実践事例から交流及び共同学習の理解を深める。					講義	
第15回	知的障害教育におけるキャリア教育及び進路指導			知的障害特別支援学校におけるキャリア教育の意義やねらい・内容等について解説する。知的障害のある児童生徒の進路指導について、実践事例を通し理解を深める。					講義	
授業方法(予 めど、77 ア チ ン グ 等)	事後学修課題を通して、授業内容の理解や知的障害児の理解、知的障害教育の在り方を考える。									
評価 方法 及び 評価 基準	<p>評価は、定期試験、事後学修課題、授業への参加度により総合評価(100点、100%)をする。</p> <p>定期試験(50点、50%) 知的障害教育に関する基本的な内容や専門的知識、指導・支援の方途に関する修得状況について評価する。</p> <p>事後学修課題(30点、30%) 各階における課題レポートについて、授業内容を踏まえ自分の考えを論理的に述べているかを評価する。</p> <p>授業への参加度(20点、20%) 授業への参加度について評価する。</p>									
課題 等	事前学修の課題について、調べた内容を授業内で発表をする。 事後学修としての課題レポートについて、提出後再考する点やさらに調べて理解を深める点を付し、次時に返却する。									
事前 事後 学修	2単位科目では、週あたり3時間程度の授業外学修内容が必要である。 事前学修：事前に授業内容におけるキーワードを提示する。提示されたキーワードを調べ授業に臨む。 事後学修：授業後の課題レポート作成を通して授業内容の理解を深めるようにする。知的障害児の理解と知的障害教育の在り方を考える。									
教材 教科書 参考書	<p>文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部)』開隆堂 978-4-304-04229-4</p> <p>文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』開隆堂 978-4-304-04230-0</p>									
留意 点	今日のインクルーシブ教育の構築をめざした教育の取り組みの中で、知的障害のある児童生徒個々の教育的ニーズに即応した指導・支援の基本的内容の習得に努めてください。 授業中に紹介する関連図書を調べ知的障害教育の理解を深めてください。									

科目名	肢体不自由者教育論Ⅰ		科目ナンバリング	W-KYT02-07.	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L50065		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奈良岡 裕 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 肢体不自由教育の歴史、現状、児童生徒の理解、教育課程の編成、指導の内容・方法等に関する理論や知識を学び、肢体不自由教育の基本について理解を深める。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 肢体不自由教育の歴史の変遷や現状及び対象となる児童生徒の障害についてまとめる。 2 肢体不自由教育における自立活動の重要性や主な指導内容について説明できる。 3 肢体不自由教育における教育課程編成に関する基本的事項について説明できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス、肢体不自由教育の理念			<ul style="list-style-type: none"> ・「クルュッペルハイム」について調べておくこと。 ・クルュッペルハイムの理念 ・高木憲次が肢体不自由教育に及ぼした影響をまとめる。 						
第2回	肢体不自由教育の歴史			<ul style="list-style-type: none"> ・柏学園、都立光明特別支援学校について調べておくこと。 ・整形外科学の発展と肢体不自由教育 ・講義内容を基に我が国の肢体不自由教育の歴史をまとめる。 						
第3回	肢体不自由教育の現状と仕組み			<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度青森県の特別支援教育で学校・在籍数等を調べておくこと ・就学制度と特別支援学校数、特別支援学級数、在籍児童生徒数等 ・県内の肢体不自由者の教育の場をまとめる。 					小テスト	
第4回	肢体不自由児の理解			<ul style="list-style-type: none"> ・「肢体不自由」の定義を確認しておくこと。 ・起因疾患と障害の理解 ・肢体不自由教育における起因疾患と変遷をまとめる。 						
第5回	肢体不自由の障害特性と教育の意義			<ul style="list-style-type: none"> ・「肢体不自由の障害特性」について調べておくこと。 ・肢体不自由の障害特性に応じた教育の役割 ・講義内容を基に学校でできるねらいや配慮事項をまとめる。 						
第6回	教育課程Ⅰ 教育課程編成の基本			<ul style="list-style-type: none"> ・「教育課程の意義」について調べておくこと。 ・教育課程編成の手順と評価 ・教育課程編成に関する法令についてまとめる。 					小テスト	
第7回	教育課程Ⅱ 重複障害者等に関する教育課程の取扱い			<ul style="list-style-type: none"> ・「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」を調べておくこと。 ・学校教育法施行規則と学習指導要領における規定 ・講義内容を基に各規定のポイントについてまとめる。 						
第8回	教育課程Ⅲ 特別支援学校における教育課程編成			<ul style="list-style-type: none"> ・「教育課程の類型化」について調べておくこと。 ・多様性に応じた教育課程編成の工夫 ・肢不特別支援学校の教育課程編成についてまとめる。 						
第9回	教育課程Ⅳ 小・中学校における教育課程編成			<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級や特別支援学級での困り感について予想しまとめておくこと。 ・通常学級や特別支援学級における適切な学習 ・教育課程編成における両者の比較についてまとめる。 					小テスト	
第10回	肢体不自由教育の指導Ⅰ 自立活動			<ul style="list-style-type: none"> ・「自立活動」の目的と内容について調べておくこと。 ・肢体不自由の特性に応じた自立活動の具体的内容 ・肢体不自由に関連が深い内容と配慮事項をまとめる。 					レポート課題	
第11回	肢体不自由教育の指導Ⅱ 身体の動き			<ul style="list-style-type: none"> ・「筋緊張、関節可動域、拘縮、運動発達」について調べておくこと。 ・肢体不自由の特性に応じた身体機能を高める学習 ・姿勢と運動の指導における注意事項をまとめる。 						
第12回	肢体不自由教育の指導Ⅲ コミュニケーション			<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由児のコミュニケーション障害について調べておくこと。 ・コミュニケーションを豊かにする指導内容と補助手段の活用 ・自立活動のコミュニケーション区分の5項目についてまとめる。 						
第13回	肢体不自由教育の指導Ⅳ 医療的ケア			<ul style="list-style-type: none"> ・「医療的ケア」について調べておくこと。 ・医療的ケアの内容と実施に係る制度 ・医療的ケアを実施するための研修制度についてまとめる。 						
第14回	肢体不自由の特性に応じた指導			<ul style="list-style-type: none"> ・「ム・ブメント教育、動作法、図と地」について調べておくこと。 ・感覚ー運動、視知覚に働きかける学習 ・運動療法、心理療法についてまとめる。 						
第15回	肢体不自由教育Ⅰのまとめ			<ul style="list-style-type: none"> ・「肢体不自由者教育総論Ⅰ」での資料や小テストを整理・確認すること。 ・肢体不自由者教育論Ⅰの要点 ・改めて要点を確認して試験に備える。 					レポート提出	
授業方法(フ レンド、7対 ブ・ラング 等)	特になし									
評価 方法 及び 評価 基準	講義への参加度(30%)、レポート(30%)、試験(40%)により総合的に評価する。 なお、レポート提出に加え、授業の進行を見ながら確認小テストを適宜実施する。									
課題 等	レポートについて、授業で指示します。									
事前事 後学修	配付された資料を基に各自講義を振り返り、主題毎に、授業内容を予習・復習し、学修を深めることが必要である。									
教材 教科書 参考書	安藤隆男・藤田継道編著(2015)『よくわかる肢体不自由教育』ミネルヴァ書房 他に、適宜資料を配布する。 なお、①特別支援学校 教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚園・小学部・中学部)、③同解説 各教科等編(小学部・中学部)、④同解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)は、常時手許において参照できるようにすること。 参考書:『新版・キーワードブック特別支援教育ーインクルーシブ教育時代の基礎知識』クリエイツかもがわ									
留意 点	紹介する参考図書等を積極的に購読し、「肢体不自由教育」への関心を深めてほしい。									

科目名	肢体不自由者教育論Ⅱ		科目ナンバリング	W-KYT03-08.	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L50066		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	奈良岡 裕 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>肢体不自由者教育総論Ⅰで学んだ基本を踏まえ、授業見学や映像視聴及び演習等を通して、肢体不自由教育に求められるより具体的な知識、技能、教育観について理解を深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 肢体不自由教育の実践を見学し、特別支援学校や特別支援学級での学習活動についてまとめる。</p> <p>2 肢体不自由教育における個々の実態に応じた具体的学習課題を選定することができる。</p> <p>3 肢体不自由教育の課題や展望に関する基本的事項についてまとめる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	学校現場の実際(1) 特別支援学校における教育			<ul style="list-style-type: none"> 青森県内の特別支援学校(肢体不自由)のHPを調べておくこと 小中高等部の概要、教育課程の編成 各校の状況を確認し、取組の現状を説明できる。 						
第2回	学校現場の実際(2) 特別支援学校における教育			<ul style="list-style-type: none"> 北東北県内の特別支援学校(肢体不自由)のHPを調べておくこと センター的機能 ・ 医療的ケア ・ 進路指導 各校の状況を熟読し、教育課程のあり方を説明できる。 						
第3回	特別支援教育とICT			<ul style="list-style-type: none"> 肢体不自由教育における教材・教具について調べておくこと。 ICTの活用、自作教材・教具の作成と活用 教材・教具作成上のポイントについてまとめる。 					小テスト	
第4回	保護者との連携			<ul style="list-style-type: none"> 「身体障害者手帳、育成医療、就学奨励費」について調べておくこと。 保護者との連携、関連機関との連携 						
第5回	指導の実際Ⅰ 脳性まひ			<ul style="list-style-type: none"> 「脳性まひ」について調べておくこと。 特別支援学校における脳性まひ児の学習の実際 講義内容を基に脳性まひの指導上の配慮事項をまとめる。 						
第6回	指導の実際Ⅱ 重複障害(1)			<ul style="list-style-type: none"> 健全乳幼児の発達に関する資料について調べておくこと。 領域別発達段階表を活用した重症心身障害児の実態理解 領域別発達プロフィールの作成手順についてまとめる。 					小テスト	
第7回	指導の実際Ⅲ 重複障害(2)			<ul style="list-style-type: none"> 最近接領域について調べておくこと。 発達課題から導き出される具体的指導内容 領域別発達プロフィールから指導内容を考えレポートする。 						
第8回	指導の実際Ⅳ 進行性筋ジストロフィー			<ul style="list-style-type: none"> 進行性筋ジストロフィーについて調べておくこと。 特別支援学校等における筋ジストロフィー児の学習の実際 講義内容を基に筋ジストロフィーの指導上の配慮事項をまとめる。 						
第9回	指導の実際Ⅴ 二分脊椎、先天性骨形成不全			<ul style="list-style-type: none"> 「二分脊椎、先天性骨形成不全」について調べておくこと。 特別支援学校等における先天性骨形成不全の学習の実際 講義内容を基に先天性骨形成不全の指導上の配慮事項をまとめる。 					小テスト	
第10回	キャリア教育と進路指導			<ul style="list-style-type: none"> 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」 キャリア教育の定義と意義 					レポート課題	
第11回	関係機関との連携			<ul style="list-style-type: none"> 「療育、医協連携、個別的教育支援計画」について調べておくこと。 特別支援学校と隣接医療機関との連携の実際 肢体不自由教育における関係機関との連携による効果をまとめる。 						
第12回	インクルーシブ教育システム構築における肢体不自由教育			<ul style="list-style-type: none"> インクルーシブ教育システムの構築について調べておくこと。 肢体不自由に応じた合理的配慮の観点 期待されるコーディネーターの役割をまとめる。 						
第13回	肢体不自由教育に関連する福祉制度等の活用			<ul style="list-style-type: none"> 「身体障害者手帳、育成医療、就学奨励費」について調べておくこと。 肢体不自由教育を支える諸制度とその活用 						
第14回	肢体不自由教育の課題と展望			<ul style="list-style-type: none"> 障害者差別解消法について調べておくこと。 障害者基本法の改正等と学校教育 肢体不自由教育の今後の在り方についてまとめる。 						
第15回	肢体不自由教育Ⅱのまとめ			<ul style="list-style-type: none"> 授業で配付した資料や小テストの内容を整理・確認すること。 肢体不自由者教育論Ⅱの要点 改めて授業内容の要点を確認して試験に備える。 					レポート提出	
授業方法(方法・手段・手段・手段・手段等)	特になし									
評価方法及び評価基準	講義への参加度(30%)、レポート(30%)、試験(40%)により総合的に評価する。 なお、レポート提出に加え、授業の進行を見ながら確認小テストを適宜実施する。									
課題等	小レポートや課題レポートについて、授業で指示します。									
事前事後学修	配付された資料を基に各自講義を振り返り、主題毎に、授業内容を予習・復習し、学修を深めることが必要である。									
教材教科書参考書	<p>教科書 安藤隆男・藤田継道編著(2015) 『よくわかる肢体不自由教育』 ミネルヴァ書房</p> <p>他に、適宜資料を配布する。</p> <p>なお、①特別支援学校 教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚園・小学部・中学部)、③同解説 各教科等編(小学部・中学部)、④同解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)は、常時手許において参照できるようにすること。</p> <p>参考書: 『新版・キーワードブック特別支援教育-インクルーシブ教育時代の基礎知識』 クリエイツかもがわ</p>									
留意点	紹介する参考図書等を積極的に購読し、「肢体不自由教育」への関心を深めてほしい。									

科目名	病弱者教育論		科目ナンバリング	W-KYT02-09.	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L50067		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	山崎 誠悦			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	【授業の主旨】 特別支援学校教諭免許状取得に必要な履修科目である。病弱教育に関する基礎的内容を解説する。病弱教育の意義及び児童生徒の心理的特性や学習上の特性について解説する。病弱特別支援学校を中心に、教育課程の編成、個別の指導計画、指導方法、指導上の留意点等指導・支援に関する基礎的・基本的事項を解説する。病弱教育対象の児童生徒の主な病気をとり上げ、児童生徒理解と教育的支援のあり方について理解を図る。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。									
	到達目標	(1) 病弱教育の対象となる病気と医療・教育的支援内容について理解する。 (2) 病弱・身体虚弱児の心理的特性及び学習上の特性について理解する。 (3) 病弱特別支援学校における教育課程、指導内容、指導方法について理解する。 (4) 病弱教育における指導に関する基礎的・基本的事項や指導上の留意事項について理解する。								
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備考
第1回	オリエンテーション 病弱教育の意義			各回の授業内容と進め方及び本授業の評価方法について説明する。病弱と身体虚弱の定義について解説する。病弱教育の意義について理解を深める。						講義
第2回	病弱教育の歴史			日本における病弱教育の成立・発展過程を概観する。戦後の病弱教育に関する教育制度の整備状況を解説する。今日の病弱教育の現状と課題について考察する。						講義
第3回	就学先決定のあり方と教育の場			病弱教育対象の児童生徒の病気の種類の推移を概観する。就学先決定の仕組みと手続きを解説し、就学先決定のあり方について理解を深める。						講義
第4回	病弱・身体虚弱児の心理的特性			病弱・身体虚弱児に見られる悩みや不安等を取り上げ、心理・行動面の特徴的な状態像について理解を深める。発達段階から見た心理社会的問題点について考察する。						講義
第5回	病弱特別支援学校における教育課程の編成			教育課程の意義及び教育課程に関する法令や基本的な要素を解説する。病弱特別支援学校における教育課程の具体例を紹介し、教育課程の編成について理解を深める。						講義
第6回	病弱教育における各教科の指導			各教科の指導にあたり、児童生徒の学習上の特性・指導目標の設定・指導内容の精選・指導計画の作成・指導上の留意点について解説する。病弱・身体虚弱児に対する教科指導の基礎的・基本的事項について理解を深める。						講義
第7回	病弱教育における自立活動の指導			自立活動の指導にあたり、実態把握・指導目標の設定・指導内容の選定・指導計画の作成・指導上の留意点について解説する。自立活動の指導に関する基礎的・基本的事項について理解を深める。						講義
第8回	病弱教育におけるキャリア教育及び進路指導			病弱教育におけるキャリア教育及び進路指導について解説する。病弱特別支援学校高等部における就労体験等を含む職業教育の具体的な取り組み、卒業後の追指導や関係機関との連携・支援について理解を深める。						講義
第9回	白血病の児童生徒の理解と教育的支援			白血病の児童生徒の身体面・心理面・生活面・学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。						講義
第10回	ネフローゼ症候群の児童生徒の理解と教育的支援			ネフローゼ症候群の児童生徒の身体面・心理面・生活面・学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。						講義
第11回	気管支ぜんそくの児童生徒の理解と教育的支援			気管支ぜんそくの児童生徒の身体面・心理面・生活面・学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。						講義
第12回	単純性肥満の児童生徒の理解と教育的支援			単純性肥満の児童生徒の身体面・心理面・生活面・学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。						講義
第13回	筋ジストロフィーの児童生徒の理解と教育的支援			筋ジストロフィーの児童生徒の身体面・心理面・生活面・学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。						講義
第14回	心身症の児童生徒の理解と教育的支援			心身症の児童生徒の身体面・心理面・生活面・学習面等の状態像を概説し、児童生徒の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導に関する教育的支援について理解を深める。						講義
第15回	重症心身障害児の理解と教育的支援			重症心身障害児の一般的特徴や状態像について概説し、重症心身障害児の理解を深める。各教育の場における学習や生活指導等に関する教育的支援について理解を深める。						講義
授業方法(レクチャー、グループワーク、ディスカッション等)	事後学修課題を通して、授業内容の理解や病弱・身体虚弱児の理解、病弱教育の在り方を考える。									
評価方法及び評価基準	評価は、定期試験、事後学修課題、授業への参加度により総合評価(100点、100%)をする。 定期試験(50点、50%) 病弱教育に関する基本的な内容や専門的知識、指導・支援の方途に関する修得状況について評価する。 事後学修課題(30点、30%) 各回における課題レポートについて、授業内容を踏まえ自分の考えを論理的に述べているかを評価する。 授業への参加度(20点、20%) 授業への参加度について評価する。									
課題等	事前学修の課題について、調べた内容を授業内で発表をする。 事後学修としての課題レポートについて、提出後再考する点やさらに調べて理解を深める点を付し、次時に返却する。									
事前事後学修	2単位科目では、週あたり3時間程度の授業外学修内容が必要である。 事前学修：事前に授業内容におけるキーワードを提示する。提示されたキーワードを調べ授業に臨む。 事後学修：授業後の課題レポート作成を通して授業内容の理解を深めるようにする。病弱・心身虚弱児の理解と病弱教育の在り方を考える。									
教材教科書参考書	宮本信也・土橋圭子編集 『病弱・虚弱児の医療・療育・教育 改訂3版』, 金芳堂 ISBN:978-4-7653-1627-9									
留意点	今日のインクルーシブ教育のシステム構築をめざした特別支援教育の取り組みの中で、病弱・身体虚弱児個々の教育的ニーズに即応した指導・支援の基本的内容の修得に努めてください。保護者理解及び生命倫理、人生観などについて考えて欲しい。 授業中に紹介する関連図書を調べ病弱教育の理解を深めてください。									

科目名	視覚障害者教育総論		科目ナンバリング	W-KYT01-10.	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L50073		16時間				
区分	資格関係科目		担当者名	中村 紹子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害教育の基礎・基本的な知識、理論を解説し、理解できるようにする。 ・全盲や弱視（ロービジョン）の教育内容、方法を解説する。疑似体験や演習を通して理解と興味を促す。 <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害児の教育指導に必要な方法や配慮事項を理解し、説明できる。 ・視覚障害児教育の触覚や聴覚の活用、視覚を活用した教材教具について理解し、その必要性や特徴を説明できる。 ・視覚障害児教育の現状と課題を考察して、教育の適切な場や制度等を説明できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	視覚障害の定義と眼疾患			<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害の概念や定義を知る ・視機能、眼疾患の種類を知る ・教育の場について考察する 						
第2回	弱視児の指導			<ul style="list-style-type: none"> ・弱視児の特性を知る ・見えやすい環境、指導の仕方を知る ・弱視の見え方を体験し、指導の工夫を考察する。 						
第3回	盲児の指導			<ul style="list-style-type: none"> ・盲児の特性を知る ・触覚や聴覚を活用した指導の仕方を知る ・目隠し状態での演習で、触覚や聴覚活用について考察する。 						
第4回	点字			<ul style="list-style-type: none"> ・点字の歴史とその概要について知る。 ・点字の読み書きを演習し、理解する。 						
第5回	歩行指導			<ul style="list-style-type: none"> ・歩行の仕方、白杖の役割を知る。 ・手引き歩行、伝い歩きを体験し、支援の仕方を考察する。 						
第6回	視覚障害乳幼児の発達の支援			<ul style="list-style-type: none"> ・早期教育の必要性を理解する。 ・支援の方法を学ぶ。 ・保護者支援の在り方を考察する。 						
第7回	教材・教具と支援機器、自立活動			<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や視覚補助具を知る。 ・視覚障害児の自立活動を知る。 ・教材教具を実際に触れることで理解を深める。 						
第8回	視覚障害教育を支える、総括			<ul style="list-style-type: none"> ・教育、福祉、医療の連携の必要性を理解する。 ・福祉制度を知る。 ・視覚障害者のスポーツを理解する。 						
授業方法(注) ディプロマ ポリシー等)	グループワーク	ペアワーク	資料記入	クイズ、小テスト						
	視覚障害の状態をイメージした体験型学習を適宜実施する。点字演習、歩行体験を実施する。									
評価 方法及び 評価 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回終了時に課す小レポートの提出（5点×8回＝40点） ・全講義終了時に課すレポート課題の提出（60点） 計100点 									
課題 等	小レポートは原則次回の講義の際に提出とする予定。									
事前事 後学修	提出された小レポートを基に、解説や質問への回答を必要に応じて行い、理解を促す。									
教材 教科書 参考書	資料を配付する。									
留意 点	短時間の講義であるため、毎時間積極的姿勢で集中して学んでほしい。 小レポートに丁寧に取り組むことで、復習確認でき理解が増す。									

科目名	聴覚障害者教育総論		科目ナンバリング	W-KYT01-11.		単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L50069			16時間				
区分	資格関係科目		担当者名	川村 泰弘 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修									
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>聴覚障害特別支援学校における教育を中心に、聴覚障害教育の制度や歴史および現状、聞こえの仕組みやその障害の種類、聞こえを補う手段、聞こえの障害がもたらす発達上の特徴等について理解する。そのうえで、聴覚障害の早期発見と保護者支援、聴覚障害教育における教育課程や指導方法等についての学びを深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>										
到達目標	<p>1 聴覚障害教育に尽くした人物と主な業績及び指導方法の変遷から、聴覚障害教育の歴史を説明することができる。</p> <p>2 聞こえの仕組みと聴覚障害の種類、聞こえを補う手段、聞こえの障害がもたらす発達上の特徴等について説明することができる。</p> <p>3 聴覚障害者教育の教育課程や指導方法等について概要を説明することができる。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	聴覚障害児教育の歴史			・聴覚障害児教育の発展に尽力した人々とその業績、指導方法の変遷等、我が国の聴覚障害教育の歴史を学ぶ。							
第2回	聞こえの仕組みと障害の種類			・聞こえの仕組み、障害を受けた部位による聴覚障害の分類とその特徴、障害による聞こえの型について学ぶ。							
第3回	障害の早期発見と保護者支援			・聴覚障害の早期発見と保護者支援、関係機関との連携の重要性を理解するとともに新生児聴覚検査法について学ぶ。							
第4回	オージオグラムの見方と平均聴力損失の計算方法および補聴器の取扱い			・オージオグラムの見方と平均聴力損失の計算方法を学び、四分法で平均聴力を算出する。 ・補聴器の保守と取り扱いについて学ぶ。							
第5回	聴覚障害者の言語の獲得と言語使用の特徴			・聴覚障害に起因する言語獲得の困難と言語使用の特徴について学ぶ。							
第6回	聴覚障害とコミュニケーション			・聴覚障害児の指導で用いられている手話、筆記、聴覚口話、指文字、キューサイン等のコミュニケーション手段の特徴について学ぶ。							
第7回	聴覚障害教育の教育課程と自立活動			・聴覚障害特別支援学校(小学部～高等部)における教育課程編成とカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方、各教科等の指導の工夫、自立活動の内容と個別の指導計画の作成について学ぶ。							
第8回	講義全体のまとめ			・講義全体のまとめを行う。							
授業方法(ゼミ、ディスカッション、グループワーク、ペアワーク、資料記入、授業中のノート取り)	誘導ディスカッション			グループワーク	ペアワーク	資料記入	授業中のノート取り				
評価方法及び評価基準	レポート(40%)、試験(30%)、授業への参加度(30%)										
課題等	第3回目、第6回目の授業後に小レポートの課題を出す。小レポートは次の講義開始時に提出する。										
事前事後学修	事前：次回の授業内容のポイント、キーワード等を提示するので、関連する情報を調べておくこと。 事後：資料を見て授業を振り返り、疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。										
教科書参考書	<p>教科書：随時、資料を配布する。</p> <p>参考書：特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 ISBN:978-4303124243 特別支援学校高等部学習指導要領 ISBN:978-4303124274 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部) ISBN:978-4304042294 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部) ISBN:978-4304042317 特別支援学校学習指導要領解説 総則編(高等部) ISBN:978-4863715257</p>										
留意点	授業で学んだ内容について、随時参考書を読んで理解を深めてください。										

科目名	重複障害者教育総論		科目ナンバリング	W-KYT01-12.	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	L50070		16時間				
区分	資格関係科目		担当者名	川村 泰弘 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>重複障害者はそれぞれ多様な教育的ニーズを抱えていることを理解し、学校教育として何を目標に、どのような内容・方法で教育・支援を行っていくべきかを考える。講義に加えて、重複障害、重症心身障害児の日常を記録した動画等の視聴を通して、重複障害者の特性と実態把握、心理的側面への配慮と教育課題、さらには医療や福祉との連携の大切さについて学ぶ。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 重複障害の定義を説明できる。 2 重複障害児者に対する教育の現状、重複障害者教育に係る教育課程の取扱い等について概要を説明するとともに、カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を身につける。 3 重複障害児の障害状況に応じた課題学習と具体的指導方法を説明できる。 4 教育と医療や福祉との連携の必要性を説明できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	重複障害の定義と関連する用語			<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示す重複障害の定義を学ぶ。 ・重度・重複、重症心身障害等関連用語を学ぶ。 						
第2回	障害の重複・重度化の現状			<ul style="list-style-type: none"> ・障害の重複・重度化の現状と教育の場を学ぶ。 						
第3回	「盲ろう」の障害理解			<ul style="list-style-type: none"> ・「盲ろう」の重複障害者の心理と支援の基本を学ぶ。 						
第4回	重複障害児のコミュニケーション			<ul style="list-style-type: none"> ・発信行動と受信行動の考えを基にした重複障害児のコミュニケーションの定義とコミュニケーション関係を築くための基本的な係わり方を学ぶ。 						
第5回	重複障害児の教育課程（個別の指導計画の作成とカリキュラム・マネジメント）			<ul style="list-style-type: none"> ・重複障害児に対する教育課程の編成（訪問教育を含む）の基本的な枠組みを理解するとともに、指導事例を基に個別の指導計画の作成とカリキュラム・マネジメントの考え方を学ぶ。 						
第6回	重複障害児の指導			<ul style="list-style-type: none"> ・指導課題の設定と指導内容・方法（「感覚と運動」「学習・概念行動」「記号操作」「市販アプリやタブレット端末等を活用」等）について学ぶ。 						
第7回	医療的ケアの現状と課題			<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校における医療的ケアの基本的な考え方と実施体制について学ぶ。 						
第8回	講義全体のまとめ			<ul style="list-style-type: none"> ・講義全体のまとめを行う。 						
授業方法(注1)	誘導ディスカッション	グループワーク	ペアワーク	資料記入	授業中のノート取り					
評価方法及び評価基準	レポート（40%）、試験（30%）、授業への参加度（30%）									
課題等	第3回目、第6回目の授業後に小レポートの課題を出す。小レポートは次の講義開始時に提出する。									
事前事後学修	事前：次回の授業内容のポイント、キーワード等を提示するので、関連する情報を調べておくこと。 事後：資料を見て授業を振り返り、疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。									
教科書参考書	<p>教科書：随時、資料を配布する。</p> <p>参考書：特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 ISBN:978-4303124243 特別支援学校高等部学習指導要領 ISBN:978-4303124274 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部） ISBN:978-4304042294 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） ISBN:978-4304042317 特別支援学校学習指導要領解説 総則編（高等部） ISBN:978-4863715257</p>									
留意点	授業で学んだ内容について、随時参考書を読んで理解を深めてください。									

科目名	発達障害者教育総論		科目ナンバリング	W-KYT01-13.	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期	
			科目コード	L50071							
区分	資格関係科目		担当者名	奈良岡 裕 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独		
	教員免許(特支)	必修									
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>ASDやLD、ADHD等の発達障害について、それぞれの障害の要因や障害特性を理解する。また、感覚や認知及び行動の特性等に起因する対人関係の形成の難しさや、二次的な障害などさまざまな発達上の課題とその解決の方向性を探る。発達障害者に対する特別の教育課程の編成や、指導内容や方法を考えることを通してカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解するとともに、地域のセンターとして特別支援学校の果たす役割の必要性を再確認する。 ※講義形式の授業であるが、可能な限り予習シートに基づく協議を取り入れる。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 ASDやLD、ADHD等の発達障害の要因と障害特性について説明できる。 2 発達障害者一人一人の状態、感覚や認知及び行動の特性に応じた基本的な教育的支援（自立活動との関連）について説明できる。 3 発達障害のある児童生徒の指導事例を通して、特別支援学校が地域のセンターとしての果たすべき役割を説明できる。 4 個別の指導計画の作成を通して特別の教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解する。 5 家庭や医療、福祉及び労働機関との連携の重要性を説明できる。 										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	教育における発達障害			発達障害者の指導の場とそれぞれにおける特別の教育課程の編成の基本的な考え方を理解する。さらに、幼稚園教育要領及び小学校、中学校又は高等学校校学習指導要領に記載の障害を有する児童生徒に対する配慮事項を確認する。							
第2回	ASD（自閉スペクトラム症）の理解と支援			「自閉症」という概念と、その要因にまつわる歴史的経緯を理解する。							
第3回				自閉スペクトラム症の定義と障害特性を理解する。					小テスト1		
第4回				TEACCHプログラム、構造化、視覚的情報の活用等を中心とした自閉スペクトラム症の生徒への教育的対応を考える。							
第5回	LD（学習障害）の理解と支援			LD（学習障害）の定義と障害特性を理解する。							
第6回				難易度を考慮した課題提示、スモールステップ化など学習障害の学習・行動特性に応じた教育的対応を考える。 読み書きをサポートするICT教材・機器の活用について考える。					小テスト2		
第7回	ADHD（注意欠如・多動症）の理解			ADHD（注意欠如・多動症）の定義と障害特性を理解する。							
第8回				ソーシャルスキルトレーニング、環境調整などADHDの生徒への教育的対応を考える。					小テスト3		
第9回	校内体制の確立と関係教育機関の連携			校内委員会の役割と特別支援教育の全体計画の立案など、校内指導体制の確立と域内の幼稚園や小中学校等との連携の在り方を考える。					レポート課題提示		
第10回	高校通級の現状と課題			高校における「通級による指導」の導入の経緯と現状を知り、現在抱える問題点の解決のためのアイデアを考える。					小テスト4		
第11回	発達障害児に見られる感覚と運動の問題			感覚の過反応や運動面の不器用さから学校生活の困難と自尊心の低下を招くことがある。その特性を理解し教育的対応を考える。							
第12回	二次的な障害の理解と予防			二次的な障害とはどのようなことか、また、その予防的な取り組みに向けて、学校教育の中でどのような指導や支援が必要かを考える。							
第13回	個別の指導計画の作成			指導事例を基づく個別の指導計画の作成を通して特別の教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントの基礎的考え方を理解する。					個別の指導計画の作成（演習）		
第14回	家庭や関係機関との連携と支援連携・協働			発達障害者に対する有効な指導と生活の質の向上を図るため、家庭や他機関の専門家との連携・協働のあり方を探る。							
第15回	インクルーシブ教育の現状			合理的配慮と基礎的環境整備の現状とインクルーシブ教育システム構築の課題を理解する。					レポート提出		
授業方法(ゼミナール、フリースタイル、グループワーク等)	特になし										
評価方法及び評価基準	講義への参加度（30%）、レポート（30%）、試験（40%）により総合的に評価する。 なお、レポート提出に加え、授業の進行を見ながら確認小テストを適宜実施する。										
課題等	レポートについて、授業で指示します。										
事前事後学修	配付された資料を基に各自講義を振り返り、興味・関心主題毎に、授業内容を予習・復習し、学習を深めることが必要である。										
教材教科書参考書	教科書：適宜資料を配布する。 参考書：『はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために 改定版』 有斐閣アルマ 『新版・キーワードブック特別支援教育-インクルーシブ教育時代の基礎知識』 クリエイツかもがわ										
留意点	なお、①特別支援学校 教育要領・学習指導要領、②特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚園部・小学部・中学部）、③同解説 各教科等編（小学部・中学部）、④同解説 自立活動編（幼稚園部・小学部・中学部）は常時手許において参照できるようにすること。										

科目名	教育実習(特別支援)		科目ナンバリング	W-KYT03-14	単位数 時間	3単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目コード	L50072		90時間				
区分	資格関係科目		担当者名	川村 泰弘 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	単独	
	教員免許(特支)	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱を教育領域とする特別支援学校で2～3週間の教育実習を行う。 事前指導においては、教育実習生としての心構えを持つことができるよう、講義や映像資料を通して教育現場への理解を深める。 事後指導においては、実習全般及び研究授業等についての反省を踏まえて、目指す教師像を明確にする。 以上の授業をとおして、教育実習の意義を理解する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>(事前) 1 学校教員としての基礎的なマナー、校務分掌等の校内組織の役割、教材研究の方法の理解を深めるとともに、学習指導案の作成と模擬授業を通して、教育実習を実施するために必要な基礎的能力を身につける。 2 教育実習における留意事項を確認し、教育実習生としての心構えを持つ。 (実習) 3 これまで学んだ理論やスキルを活用しながら教育実習に取り組み、特別支援学校の教員として必要な指導力、実践力を身につける。 (1) 児童生徒とのふれあいや実習校教員からの指導を通して、障害のある児童生徒の理解を深める。 (2) 特別支援学校の教員に求められる知識・技能・態度を学ぶ。 (3) 特別支援教育を担う教員としての使命感を自覚し、目指す教師像を明確にする。 (事後) 4 実習指導教員及び実習校教員による指導を踏まえて、自らの授業、生徒指導、学級経営等について振り返り、教員としての適性を確認するとともに、課題を整理することで改善方法を考察する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考	回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考			
第1回	事前指導①ガイダンス 教育実習(特別支援教育)の意義	・教育実習の目的と意義を確認する。		第16回	特別支援学校における教育実習	・実習校における教育実習(研究事業・授業研究を含む)に臨む。				
第2回	事前指導② 特別支援学校教員の一日	・教職員の勤務、服務、授業、学級事務等についての理解を深める。		第17回						
第3回	事前指導③ 学習指導案の作成	・サンプルを基にした学習指導案の作成と発表・協議を行う。		第18回						
第4回	事前指導④ 模擬授業	・作成した学習指導案による模擬授業の実施・協議を行う。		第19回						
第5回	事前指導⑤ 記録の作成と活用	・実習日誌の記入や記録の取り方・活用の仕方を理解する。		第20回						
第6回	特別支援学校における教育実習	・実習校における教育実習(研究事業・授業研究を含む)に臨む。		第21回						
第7回			第22回							
第8回			第23回							
第9回			第24回							
第10回			第25回							
第11回			第26回							
第12回			第27回							
第13回			事後指導① 教育実習の成果と課題	・教育実習での成果と課題等をレポートにまとめる。			第28回			
第14回			事後指導② 実習の体験発表	・レポート「特別支援学校の教育実習で学んだこと」の報告会を行う。			第29回			
第15回			事後指導③ まとめ	・「目指す教師像」をまとめる。(履修ファイルに綴じ込む)			第30回			
授業方法(方法・774 ア・ブ・シ・ソ 等)	誘導ディスカッション	実習、フィールドワーク	発表、ポスター作成	資料記入	授業中のノート取り					
評価方法及び評価基準	教育実習校の評価(70%)と事前・事後指導の模擬授業・発表・レポート(30%)により総合的に判断する。									
課題等	体験発表の際には、示された様式のレポートに加えて研究授業で作成した学習指導案や用いた教材・教具等を用意する。									
事前事後学修	予習：シラバスを見て、次時の内容に関する「実習の手引」の該当箇所を読み、考えをまとめて授業に臨むこと。 復習：その日の学習内容に関するポイントを確認し、疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。									
教科書教科書参考書	教科書：学内資料『教育実習(特別支援学校)の手引』を配布する。									
留意点	実習校の校長、教頭、教育実習主任、指導教員の指導・助言を誠実に受け止めるよう努めること。 社会人としてふさわしい態度・服装、言葉遣いに留意すること。 目標と課題意識を持って教育実習に臨み、教員としての資質能力を高めるように努めること。 ※実習先である特別支援学校の配属学部に関する学習指導要領とその解説を持参すること。									

科目名	学校図書館メディアの構成		科目ナンバリング	L-QULB2-01.NL	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	L20002		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	本間 維			授業 形態	講義	単独	
	司書教諭	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>学校図書館は、収集された資料を活用して各科目教育を支えるとともに、児童・生徒の読書や学習を支えたり、情報リテラシーの育成を図ったりする役割があります。利用者にとって資料を使いやすいものとするために、図書館では資料の収集や整理において様々な工夫が施されます。この科目では、学校図書館の資料群（コレクション）の構築に必要な基礎的な知識と技術を紹介します。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 目録作成、分類・件名付与の基本的な作業ができる 資料の選択や収集にあたって注意すべき点を説明できる 学校図書館の役割や各種基準等に基づき、コレクション構築の課題を論じることができる 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	学校図書館の役割			<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館に期待される3つのセンター機能 各種資料で言及される学校図書館の役割 学校図書館で扱われる資料 						
第2回	コレクション構築			<ul style="list-style-type: none"> コレクション構築とは何か コレクション構築の手順 						
第3回	資料組織法			<ul style="list-style-type: none"> 資料組織の目的と効果 資料組織の代表的な手法 						
第4回	主題分類法			<ul style="list-style-type: none"> 主題分類とは何か 日本十進分類法 その他の分類法 				附属図書館での実施		
第5回	実践：日本十進分類法を用いた主題付与（1）			<ul style="list-style-type: none"> 日本十進分類法の使い方 				附属図書館での実施		
第6回	実践：日本十進分類法を用いた主題付与（2）			<ul style="list-style-type: none"> 分類付与に関する演習問題 				附属図書館での実施		
第7回	主題索引法			<ul style="list-style-type: none"> 主題索引とは何か 基本件名標目 その他の件名標目 						
第8回	実践：各種件名標目を用いた主題付与（1）			<ul style="list-style-type: none"> 基本件名標目の使い方 国立国会図書館件名標目の使い方 PC等を用いた件名標目の検索方法を説明する 						
第9回	実践：各種件名標目を用いた主題付与（2）			<ul style="list-style-type: none"> 件名付与に関する演習問題 PC等を用いて件名標目の検索を行う 						
第10回	目録法			<ul style="list-style-type: none"> 目録とは何か 日本目録規則 						
第11回	実践：日本目録規則を用いた目録作成			<ul style="list-style-type: none"> 日本目録規則の使い方 日本目録規則を用いた書誌情報の記録 						
第12回	応用：Web上で公開されている目録			<ul style="list-style-type: none"> 各図書館のOPACで書誌情報を確認 学校図書館として必要な書誌事項を考える PC等を用いて書誌情報の検索・閲覧を行う 						
第13回	出版流通の仕組み			<ul style="list-style-type: none"> 商業出版 学術出版 再販制度と取次 						
第14回	選書			<ul style="list-style-type: none"> 選書の方法と留意点 選書のためのツール 						
第15回	コレクションの評価			<ul style="list-style-type: none"> コレクションの追加、更新、廃棄 コレクションの評価指標 						
授業方法(レクチャー、演習、グループワーク等)	クイズ、小テスト	理解度チェック								
評価方法及び評価基準	<p>課題（主題付与）：40%</p> <p>第5回、第6回、第8回、第9回に行う演習：各10%</p> <p>課題（目録作成）：30%</p> <p>第11回、第12回に行う演習：各15%</p> <p>期末レポート：30%</p> <p>学校図書館のコレクション構築における課題や事例を調査</p>									
課題等	<p>授業内の課題はその場で誤り等を指摘します。期末レポートは要件を満たしていない場合に再提出を求めます。各課題や期末レポートは、オンライン授業アプリを通じて提出してください。</p>									
事前事後学修	<p>授業内にいくつかの報告書やWebサイトを紹介することがあります。それらを授業後に参照してみてください。事後学修時間の目安：1日あたり30分程度</p>									
教材教科書参考書	<p>志保田務ほか、『情報資源組織法 演習問題集 第3版』, 第一法規, ISBN:9784474072589</p>									
留意点	<p>授業の資料はオンライン授業アプリを通じて共有します。第8回、第9回、第12回は、PCやスマートフォンを用いた検索を行います。機器は各自で用意してください。授業に関する質問などは、tsunagu.honna@gmail.comにメールで連絡してください。</p>									

科目名	学習指導と学校図書館		科目ナンバリング	L-QULB2-02. NL	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	L20003		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	庭田 瑞穂				授業 形態	講義	単独
	司書教諭	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 本授業では、学校教育における学校図書館の役割と意義、そして課題について取り上げ、これからの学校教育における学校図書館の在り方について学びます。司書教諭の役割が多く求められる昨今、学校現場において司書教諭がどのような役割をしているのかについても理解を深めます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	司書教諭としての任務遂行に関する次の事柄を理解することができる。 (1) 教育課程における学校図書館の役割と課題 (2) 学校図書館に係る諸制度・基準 (3) 学校図書館における人的・物的環境整備 (4) 学校図書館運営の実務の概要									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	学校図書館の役割について			普通教育における学校図書館の現状						
第2回	学校図書館の歴史			日本における学校図書館の歴史						
第3回	学校図書館制度と行政の役割			学校図書館制度の概要と図書司書設置						
第4回	学習指導要領と学校図書館			学習指導要領の変遷と学校図書館の関わり					ペアワーク	
第5回	学習指導要領と学校図書館			学習指導要領の目的に応じた学校図書館の具体的役割					ペアワーク	
第6回	分類番号と学校図書館の配置			学校図書館設置の効果的な方法					ポスター作成	
第7回	学校図書館と授業との関わり 1			小学校国語科の学習と学校図書館との関わり					グループワークディスカッション	
第8回	学校図書館と授業との関わり 2			中学校国語科の学習と学校図書館との関わり (1)					グループワークディスカッション	
第9回	学校図書館と授業との関わり 3			中学校国語科の学習と学校図書館との関わり (2)					ロールプレイング	
第10回	子どもと読書と司書教諭			司書教諭の実際の活動 (実技)					実習	
第11回	子どもと読書と司書教諭			司書教諭の実際の活動 (実技)					実習	
第12回	子どもと読書と司書教諭			司書教諭の実際の活動 (実技)					実習	
第13回	未来の学校図書館構想 1			図書館地図の作成 (実技)					グループワークディスカッション	
第14回	理想の学校図書館構想 2			学校図書館計画の作成					グループワークディスカッション	
第15回	まとめ			これからの学校図書館の在り方					ディベート	
授業方法(学びの場・学びの機会)	PBL (問題解決型学習)		実習、フィールドワーク	発表、ポスター作成	グループワーク	ペアワーク	ディベート	ロールプレイング	授業中のノート取り	
評価方法及び評価基準	評価方法：「科目試験」20%「授業への参加度」50%「レポート」30% 評価基準：秀 合計が90点に達した場合 優 合計が80点に達した場合 良 合計が70点に達した場合 可 合計が60点に達した場合									
課題等	各講義終了後に記述するレポート。レポートに関してはコメントを記入しフィードバックを行う。									
事前事後学修	次回講義時に前回の講義における疑問や課題に関するレポートをまとめて紹介し、意見交流を行えるよう準備するため、週3時間程度の学修が必要。									
教材教科書参考書	教科書：『学校図書館基本資料集』野口武悟・編 全国学校図書館協議会・監修 ISBN 978-4-7933-0101-8 教科書以外に、参考文献等はプリントとして配付する。									
留意点	司書教諭活動の実技の他、グループワーク、ディスカッションなど演習形式を取り入れる。									

科目名	読書と豊かな人間性		科目ナンバリング	L-QULB2-03. NLS	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	L20004		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	庭田 瑞穂				授業 形態	講義	単独
	司書教諭	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 子どもたちに豊かな心を育成することのできる読書指導について取り上げ、子どもの発達段階に応じた読書指導の具体的な内容を、講義や演習を通して学ぶ。学校における読書指導と司書教諭の役割についても理解を深める。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の豊かさを体現する読書教育の在り方、読書指導の方法や手立てについて実践を通して知識や技能を身に付ける。 ・学校図書館における司書教諭の役割についての理解を深める。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修						備考
第1回	読書の意義や目的			人間にとっての読書の意義や目的						
第2回	子どもたちの読書の現状			子どもたちの読書に対する意識の現状と変遷						
第3回	子どもたちの心の成長と読書			子どもたちの心の成長にもたらず読書の効果						ペアワーク
第4回	司書教諭と学校図書館			学校における図書司書の役割						グループワーク ディスカッション
第5回	司書教諭と学校図書館			読書との出会いと効果的手法						グループワーク ディスカッション
第6回	小学校国語科教育と読書との関連～			小学校における読書指導の実際						ロールプレイング
第7回	中学校国語科教育と読書との関連～			中学校における読書指導の実際						ロールプレイング
第8回	広がる読書と読書習慣の形成			読書の習慣形成を図るための指導方法の具体						グループワーク ディスカッション
第9回	個人の読書から共同の読書へ①			進んで本を読む子どもを育てる指導の工夫						グループワーク ディスカッション
第10回	個人の読書から共同の読書へ②			進んで本を読む子どもを育てる指導の具体的構想						グループワーク ディスカッション
第11回	個人の読書から共同の読書へ③			子どもの主体性を引き出す読書指導の実際						グループワーク ディスカッション
第12回	読書指導の実際			読書指導の具体的実践						ディベート 実習
第13回	読書指導の実際			読書指導の具体的実践						実習
第14回	読書指導の実際			読書指導の具体的実践						実習
第15回	「豊かな人間性」を育成する読書教育についてのまとめ			「読書」と「豊かな人間性」のかかわりのまとめ						発表
授業方法(注1) ディベート、アクティビティ等)	PBL (問題解決型学習)		実習、フィールドワーク	グループワーク	ペアワーク	ディベート	発表、ポスター作成	授業中のノート取り	ロールプレイング	
評価方法及び評価基準	<p>評価方法：「講義レポート」30%「授業への参加度」40%「日常の成果物」30% 評価基準：秀 合計が90点に達した場合 優 合計が80点に達した場合 良 合計が70点に達した場合 可 合計が60点に達した場合</p>									
課題等	講義中に作成する成果物。随時、コメントを記入しフィードバックを行う。									
事前事後学修	次回講義時に前回の講義における疑問や課題に関するレポートをまとめて紹介し、意見交流を行えるよう準備するため、週3時間程度の学修が必要。									
教材教科書参考書	講義に関係する参考文献等はプリントとして配付。									
留意点	グループワーク・ディスカッション・読み聞かせ実習など演習形式を取り入れる。									

科目名	社会教育経営論Ⅰ		科目ナンバリング	L-QUS02-00. NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期	
			科目コード	L40061		30時間					
区分	資格関係科目		担当者名	越村 康英			授業 形態	講義	単独		
	社会教育士	必修									
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>社会教育主事とは、社会教育行政の要となる専門的教育職員である。したがって、この授業では、まず前提として、社会教育行政の仕組みや役割について基礎的理解を図る。その上で、社会教育行政を効果的に経営していくための指針である「社会教育計画」に着目し、その策定方法などについて、実際の事例も交えながら解説する。</p> <p>また、授業の後半では、少子高齢化・人口減少社会において期待される「社会教育行政／社会教育主事（社会教育士）の今日的役割」について、各地の先駆的実践も紹介しながら探求する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>										
到達目標	<p>次の2点を柱として、社会教育主事（社会教育士）に求められる基礎的な知識を身に付けること。</p> <p>(1) 社会教育行政の経営（経営指針としての社会教育計画）</p> <p>(2) 住民の学習を核とした地域づくり—その組織化と支援</p>										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	ガイダンス			授業の目的・内容・方法・評価について説明する。 「社会教育主事の資格」（社会教育士の称号）について解説する。							
第2回	社会教育の基本概念			社会教育法に即して社会教育の基本概念を解説する。							
第3回	社会教育行政の仕組みと役割①			教育委員会制度の概要と意義について解説する。							
第4回	社会教育行政の仕組みと役割②			社会教育法に即して社会教育行政の仕組みと基本的役割について解説する。							
第5回	社会教育行政の経営①—社会教育計画の意義			自治体社会教育計画の意義について解説する。							
第6回	社会教育行政の経営②—社会教育計画策定の視点・方法			自治体社会教育計画を策定する際の基本的な視点や方法について解説する。							
第7回	事例に学ぶ—住民参画の計画づくり			ケーススタディを通じて、住民参画の社会教育計画の策定について具体的に理解する。							
第8回	社会教育計画の実際①			グループに分かれ、国・都道府県・市町村の社会教育に関する計画について分析する。 ※それぞれWi-Fiに接続して計画の概要を調べ、分析・考察をプレゼンテーションツールを用いてまとめる。							
第9回	社会教育計画の実際②			グループに分かれ国・都道府県・市町村の社会教育に関する計画について分析する。 ※それぞれWi-Fiに接続して計画の概要を調べ、分析・考察をプレゼンテーションツールを用いてまとめる。							
第10回	社会教育計画の実際③			分析内容を発表・共有する。 ※プレゼンテーションツールを用いてまとめる。							
第11回	地域づくり（地域課題解決）と社会教育			少子高齢化・人口減少の進行などに伴い生じてきた地域課題について概説し、地域づくり（地域課題解決）に向けた社会教育の役割について考察する。							
第12回	学校・地域・地域の連携と社会教育			地域学校協働活動の推進など、学校・家庭・地域の連携に向けた政策や実践について概説する。							
第13回	地域づくりの担い手を育む			住民主体の地域課題解決学習の展開、その組織化と支援について解説する。							
第14回	社会教育におけるコーディネート			社会教育主事（社会教育士）に求められるコーディネーターとしての役割について概説する。							
第15回	授業のまとめ・ふり返り			地域に根ざした社会教育行政の展開と社会教育主事（社会教育士）に期待される役割について確認する。							
授業方法(オンライン・対面・ブレンディング等)	グループワーク			発表、ポスター作成							
評価方法及び評価基準	<p>次の2点により総合的に評価する。</p> <p>(1) 50% 作成した発表資料の内容と発表への取り組み</p> <p>(2) 50% レポート</p>										
課題等	<p>毎回の授業内容をふり返り、関心をもった点や疑問点について自分自身で探求していくことを期待する。</p> <p>※探求方法が分からない場合は、積極的に質問・相談してほしい。</p>										
事前事後学修	<p>レジュメ・資料を整理しながら授業内容の復習を行う。</p> <p>新聞やニュース、自治体の広報などを日常的に確認し、教育・学習に関する話題や議論について着目し、自分なりの見方・考え方を育てるようにする。</p> <p>週当たり3時間程度の学習が目安となる。</p>										
教材教科書参考書	<p>【教科書】購入が必要な教科書はない。レジュメ・資料などを配布し、授業を進める。</p> <p>【参考書】田中雅文・中村香編著『社会教育経営のフロンティア』玉川大学出版部、2019年 978-4-472-40588-4 その他の参考書は、随時、授業のなかで紹介する。</p>										
留意点	<p>授業への積極的な参加を期待する。</p>										

科目名	社会教育経営論2		科目ナンバリング	L-QUS02-01.NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L40062		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	坂本 徹			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 社会教育の役割、行政および民間による社会教育事業の実際を学び、それぞれの経営にかかる理念と方針を理解し、具体的な方策を身に着ける。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育の役割を理解する ・マネジメントプロセスを習得する ・人材育成と地域づくりにおいて、行政と民間が果たす役割と特徴を理解する ・多様な機関による社会教育の実際と特徴を理解する 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			授業の趣旨、授業の進め方						
第2回	社会教育の守備範囲			社会教育の守備範囲						
第3回	事業の組み立てのプロセス			PDSサイクルを回すためのマネジメントプロセス						
第4回	行政による社会教育①			人材育成における行政の役割						
第5回	行政による社会教育②			行政による人材育成の実際						
第6回	行政による社会教育③			地域づくりと行政						
第7回	民間による社会教育①			人材育成における民間の役割						
第8回	民間による社会教育②			民間による人材育成の実際						
第9回	民間による社会教育③			地域づくりと民間組織						
第10回	社会教育事業の組み立て実践①			企画と設計						
第11回	社会教育事業の組み立て実践②			取材と情報収集						
第12回	社会教育事業の組み立て実践③			要項作成と広報						
第13回	社会教育事業の組み立て実践④			募集と運営						
第14回	社会教育事業の組み立て実践⑤			事業評価						
第15回	まとめ・振り返り			授業のまとめと総括						
授業方法(注1) PBL(問題解決型 学習) グループワーク 等)										
評価方法 及び 評価 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への参画姿勢と理解度を中心に総合的に判断する。 ・ 授業への参画姿勢(出席、積極性) 20% ・ 理解度(レポート) 30% ・ 理解度(テスト) 50% 									
課題等	授業において適宜提示する。									
事前事後学修	ニュースや新聞、ネット等における社会教育関連の事項をチェックすること。									
教材教科書参考書	必要に応じてプリント等を配布する。									
留意点	授業への参画を評価対象とするので積極的に取り組むこと。									

科目名	生涯学習支援論Ⅰ		科目ナンバリング	L-QUS02-02.NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L40063		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	土井 良浩			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>本科目では、講義を通じて地域社会における生涯学習を支援するために有効なファシリテーションの理論と技術についての理解を深め、グループワークにおけるファシリテーションの実演やワークショップのプログラムデザインなどを通じてファシリテーションの技術の習得を目指す。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>①講義を通じて、地域社会における生涯学習を支援するために有効なファシリテーションの基本的な理論と技術を理解する。</p> <p>②体験や実演を通じて、ファシリテーションの基本的技術やそれを活用したワークショップの企画・運営ノウハウを習得する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			講義の概要と到達目標、スケジュール等を確認する						
第2回	ワークショップとは？／お互いを知り合わせる方法「アイスブレイク」①			・ワークショップの意味、様々な手法の解説 ・初対面の人が打ち解け合うための方法の解説・演習					グループワーク	
第3回	ファシリテーションとは？／お互いを知り合わせる方法「アイスブレイク」②			・ファシリテーションの目的や役割の解説 ・初対面の人が打ち解け合うための方法の解説・演習					グループワーク	
第4回	対話を進めやすくする方法「ポストイット・トーク」①			ワークショップの基本手法「ポストイット・トーク」の解説と体験					グループワーク	
第5回	対話を進めやすくする方法「ポストイット・トーク」②			「ポストイット・トーク」ファシリテーターの実演①					グループワーク	
第6回	対話を進めやすくする方法「ポストイット・トーク」③			「ポストイット・トーク」ファシリテーターの実演②					グループワーク	
第7回	議論を見える化する方法「ファシリテーショングラフィック」基礎編①			ファシリテーションの基本技術「ファシリテーショングラフィック」の解説と体験					ワーク	
第8回	議論を見える化する方法「ファシリテーショングラフィック」基礎編②			「ファシリテーショングラフィック」の体験					グループワーク	
第9回	議論を見える化する方法「ファシリテーショングラフィック」応用編			ミーティングにおける「ファシリテーショングラフィック」の実演					グループワーク PBL	
第10回	身体を使って学ぶ方法「まち歩き」			地域の現状把握や将来イメージづくりの基本となるフィールドワーク手法「まち歩き」の体験					フィールドワーク ロールプレイング ゲーム	
第11回	ワークショップのプログラムデザイン／興味関心の近い人たちを束ねる方法			ワークショップのプログラムのデザイン方法の解説、興味関心の近いひとを束ねる方法「マグネットテーブル」の解説・演習					チーム分け グループワーク PBL	
第12回	ワークショップのプログラムデザイン／アイデアに形を与える方法			ワークショップのプログラムデザインの演習（ワークシート作成）					グループワーク PBL	
第13回	ワークショッププログラムの実演①			第12回で作成したワークショップのプログラムの実演①					グループワーク PBL プレゼンテーション	
第14回	ワークショッププログラムの実演②			第12回で作成したワークショップのプログラムの実演②					グループワーク PBL プレゼンテーション	
第15回	プロセスデザインと参加のデザイン／授業のまとめ			・地域課題の解決につながる複数回のワークショップのプロセスのデザインや参加のデザインの解説					ワーク	
授業方法(方法・手段・手段)	PBL（問題解決型学習）		グループワーク	ロールプレイング	実習、フィールドワーク					
	ほとんどの回をグループワーク形式で実施する。第10回はロールプレイングとフィールドワークを、第11～14回はPBLをそれぞれ行う。									
評価方法及び評価基準	<p>・評価方法：授業時のワークへの取り組み・課題の充実度から総合的に判断する</p> <p>・評価基準：ファシリテーションやワークショップの基本的技術を理解し、意欲的に実践できたか</p>									
課題等	<p>・授業の集大成として、ワークショップのプログラムデザイン、ワークショップの実施、実施レポートの作成を行う</p> <p>・ファシリテーションやワークショップの運営方法について改良が必要な場合は演習時に指導する</p>									
事前事後学習	<p>・事前学習：必要な場合は前の回の終わりに提示する</p> <p>・事後学習：授業中に体験したことを、普段の活動に活用するように努めること</p>									
教材教科書参考書	<p>・授業当日に使用する教材・資料は授業開始時に配布する</p> <p>・参考書については授業時に現物を交えて紹介する</p>									
留意点	<p>・楽しく演習に取り組むと同時に、どうしたら「楽しい場」「有意義な場」を作れるか考える機会にしてほしい</p>									

科目名	生涯学習支援論2		科目ナンバリング	L-QUS02-03. NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L40064		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	井上 裕太 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>生涯学習支援のための理論と技術について、公民館における活動を中心に、実例を踏まえながら検討する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	各機関ごと、対象ごとの学習プログラムの構成や支援の在り方について理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業の進め方						
第2回	生涯学習支援の現状			生涯学習支援の現状について、弘前市の事例を中心に学習する。						
第3回	生涯学習支援とは（1）			中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」を踏まえ、生涯学習支援の理念と構造について考える。						
第4回	生涯学習支援とは（2）			「子ども」に焦点を当て、学習支援の根本的な在り方について考える。						
第5回	博物館における生涯学習支援			博物館における生涯学習支援について、実践例をもとに考える。また、グループワークを通じて企画案を考える。						
第6回	図書館における生涯学習支援			図書館における生涯学習支援について、実践例をもとに考える。また、グループワークを通じて企画案を考える。						
第7回	子どもを対象とした生涯学習支援			子どもを対象とした生涯学習支援について、実践例をもとに考える。また、グループワークを通じて企画案を考える。						
第8回	青年・若者を対象とした生涯学習支援			青年・若者を対象とした生涯学習支援について、実践例をもとに考える。また、グループワークを通じて企画案を考える。						
第9回	大人を対象とした生涯学習支援			大人を対象とした生涯学習支援について、実践例をもとに考える。また、グループワークを通じて企画案を考える。						
第10回	高齢者を対象とした生涯学習支援			高齢者を対象とした生涯学習支援について、実践例をもとに考える。また、グループワークを通じて企画案を考える。						
第11回	生涯学習支援の実例（1）			生涯学習支援の実例をもとに考える。						
第12回	生涯学習支援の実例（2）			生涯学習支援の実例をもとに考える。						
第13回	生涯学習支援の歴史			生涯学習支援のあゆみについて、終戦直後の動静をもとに考える。					オンデマンド授業	
第14回	生涯学習支援とSNS			生涯学習支援におけるSNSの活用について、実践例をもとに考える。また、グループワークを通じて企画案を考える。						
第15回	レポート発表、まとめ			レポート発表、授業の総括。						
授業方法(アクティブラーニング等)	グループワーク	発表、ポスター作成	リフレクションシート	資料記入	ディベート					
評価方法及び評価基準	授業への参加度（30%）、レポート（70%）により総合的に評価する。									
課題等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。									
事前事後学修	授業の内容を復習すること。									
教材教科書参考書	【参考書】高井正、中村香編著『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部、2019、ISBN:978-4-472-40587-7									
留意点	授業に積極的に参加し、発言すること。 第13回目はオンデマンド授業を行います。受講者は、指定された期間に、授業動画を視聴し、授業で指示された課題およびコメントを提出してください。詳細はTeamsで説明します。									

科目名	社会教育演習		科目ナンバリング	L-QUS04-10. NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
			科目コード	L40065		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	坂本 徹			授業 形態	演習	単独	
	社会教育士	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>人と人の心を繋ぐという社会教育の意義をギビングツリーを通して体験する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ギビングツリーの教育的効果について理解する ・既存の手法にとらわれず柔軟に社会教育を行う姿勢を身に着ける 									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
第1回	オリエンテーション			授業の趣旨、授業の進め方						
第2回	事例研究①			ギビングツリーとは何かを知る						
第3回	事例研究②			ギビングツリーの実施方法を学ぶ						
第4回	事例研究③			ギビングツリー実習の日程や注意点を確認する						
第5回	事例研究④			プレゼンター募集準備						
第6回	事例研究⑤			プレゼンター募集準備						
第7回	実践演習①			ギビングツリー プレゼンター募集①					さくら野百貨店における実践	
第8回	実践演習②			ギビングツリー プレゼンター募集②					さくら野百貨店における実践	
第9回	実践演習③			ギビングツリー プレゼンター募集③					さくら野百貨店における実践	
第10回	実践演習④			ギビングツリー プレゼンター募集④					さくら野百貨店における実践	
第11回	事例研究⑥			ギビングツリーの社会教育的意義を理解する						
第12回	実践演習⑤			ギビングツリー プレゼント受け取り					さくら野百貨店における実践	
第13回	事例研究⑦			ギビングツリーの社会教育的効果を理解する						
第14回	実践演習⑥			ギビングツリー プレゼント渡し					弘前学院大学礼拝堂における実践	
第15回	まとめ・振り返り			授業のまとめと総括						
授業方法(注1)	PBL (問題解決型学習)		実習、フィールドワーク	グループワーク	発表、ポスター作成					
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参画姿勢と理解度を中心に総合的に判断する。 ・授業への参画姿勢(出席、積極性) 20% ・理解度(レポート) 30% ・理解度(テスト) 50% 									
課題等	授業において適宜提示する。									
事前事後学修	ニュースや新聞、ネット等における社会教育関連の事項をチェックすること。									
教材教科書参考書	必要に応じてプリント等を配布する。									
留意点	授業への参画を評価対象とするので積極的に取り組むこと。									

科目名	社会教育実習		科目ナンバリング	L-QUS04-11.NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	通年			
			科目コード	L40055		30時間							
区分	資格関係科目		担当者名	坂本 徹、井上 裕太 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数				
	社会教育士	必修											
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会教育の意義や重要性について理解するために具体的な業務を体験する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>												
到達目標	<p>社会教育的手法によるインタビュー集を作成する</p> <p>社会教育事業や社会教育施設の役割を理解し、運営及び業務についての知識を得る</p> <p>ヒューマンライブラリーの運営を通して「協学」の実際を知る</p>												
授 業 計 画													
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考		
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について			坂本担当	第16回	実習（2）	弘前市教育委員会の協力を得て、公民館等においての実習を行う 夏季休業中を中心に24～32時間（3～4日間）程度実施する			実習		
第2回	インタビュー実習の準備①	インタビュー実習の意義について理解する			坂本担当	第17回					実習		
第3回	インタビュー実習の準備②	インタビュー実習の日程や注意点を確認する			坂本担当	第18回					実習		
第4回	インタビュー実習の準備③	インタビュー集の作成について注意点を確認する			坂本担当	第19回					実習		
第5回	実習（1）	各自の知人の協力を得て、インタビュー実習を行う			実習	第20回					実習		
第6回					実習	第21回					実習		
第7回					実習	第22回					実習		
第8回					実習	第23回					ヒューマンライブラリーの準備①	聴き手募集のチラシ作成	坂本担当
第9回		相手とスケジュールを合わせて2時間程度実施する			実習	第24回					ヒューマンライブラリーの準備②	語り手紹介パンフレットの作成	坂本担当
第10回					実習	第25回					ヒューマンライブラリーの準備③	シフト表の作成	坂本担当
第11回	施設実習の準備①	社会教育施設の種類と役割を知る			井上担当	第26回	ヒューマンライブラリーの準備④	進行の打ち合わせ	坂本担当				
第12回	施設実習の準備②	社会教育施設の業務について知る			井上担当	第27回	ヒューマンライブラリーの準備⑤	最終確認	坂本担当				
第13回	施設実習の準備③	社会教育施設における実習の日程や注意点を確認する			井上担当	第28回	実習（3）	ヒューマンライブラリーの実施（90分の中で3クール）	実習				
第14回	実習（2）				実習	第29回	ヒューマンライブラリーの振り返り	アンケート集計	坂本担当				
第15回					実習	第30回	実習の振り返り	実習を通じて学んだことを共有する	坂本担当				
授業方法(付 属資料、PPT アプリケーション 等)	実習、フィールド ワーク	グループワーク	発表、ポスター作成										
評価 方法 及び 評価 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育の意義や課題について、実習を通して体感的に探求し理解できたかを評価する。 ・授業への参画、実習中の勤務態度などから総合的に判断する。 												
課題 等	適宜、レポート形式による課題を課す。												
事前 事後 学修	ニュースや新聞、ネット記事等における社会教育関連の事項をチェックすること。												
教材 教科書 参考書	社会教育実習ノート												
留意 点	授業への参画を評価対象とするので積極的に取り組むこと。												

科目名	子ども・若者と社会教育		科目ナンバリング	L-QUS03-21.NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L40067		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	大坪 正一			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士									選択必修
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>現代の子ども・若者の抱える諸問題を取り上げ、地域の教育力を高めるための学習課題を検討する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	現代日本の子ども・若者の現状と課題を理解すること。地域での学習課題を整理できること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			講義の進め方について						
第2回	子ども・若者の問題とは何か			何を子ども・若者の問題として考えているのかを出し合って整理する					ディスカッション・ ディベート	
第3回	青少年の健全育成と地域			「健全育成」という考え方について検討する						
第4回	学校教育をめぐる諸問題1			子ども・若者の問題行動について						
第5回	学校教育をめぐる諸問題2			学校嫌いについて						
第6回	学校教育をめぐる諸問題3			競争について						
第7回	学校教育をめぐる諸問題4			いじめについて						
第8回	地域社会をめぐる諸問題1			子どもの居場所について						
第9回	地域社会をめぐる諸問題2			地域の教育力について						
第10回	子どもの貧困1			子どもの貧困の実態						
第11回	子どもの貧困2			子どもの貧困問題解決の課題						
第12回	子どもの貧困の社会的要因			新自由主義改革と貧困問題						
第13回	地域社会教育の課題			学校教育と社会教育の関連について						
第14回	質疑応答			これまでの講義について質疑					ディスカッション・ ディベート	
第15回	まとめ			試験とまとめ						
授業方法(ゼミ 形式、70分 授業等)	ディベート	誘導ディスカッション	通常の講義であっても、随時ディベートやディスカッションを追及する。							
評価方法 及び 評価 基準	授業への参加度30%、定期試験70% 到達目標に対応して青少年問題解決のための学習課題に関する問題を出す。答案の構成や論理性を重点的に評価する。									
課題等	自分の青少年時代を客観的に分析すること									
事前事後学修	講義で質問ができるように考えてくること									
教材 教科書 参考書	講義において指示する									
留意点	tubo4@hirosaki-u.ac.jp									

科目名	博物館教育論		科目ナンバリング	L-QUCR3-06. NSC	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
	科目コード		L30058			30時間				
区分	資格関係科目 社会教育士 <small>選択必修</small>		担当者名	井上 裕太 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>博物館教育の意義と理念、博物館教育の歴史を踏まえ、博物館教育の現状と課題、今後の可能性について検討する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	博物館の教育活動の意味、意義について理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		授業の進め方							
第2回	博物館教育の理念（1）		博物館における教育とは何か考える。							
第3回	博物館教育の理念（2）		博物館教育の概念について学習する。							
第4回	博物館教育の歴史		博物館教育の歴史について学習する。							
第5回	博物館教育の目的と方法		博物館教育の目的と方法について、学校教育との違いや世界各地での実践例を踏まえて考える。							
第6回	博物館教育の具体（1）		インタープリテーションやレファレンス活動について学習する。							
第7回	博物館教育の具体（2）		アウトリーチ活動やワークショップの展開について学習する。							
第8回	博物館と学校教育（1）		博物館と学校教育の関係性について、歴史的経緯を踏まえて検討する。							
第9回	博物館と学校教育（2）		博学連携について、アートカードの実践例などから、現状と課題について、グループワークを通して学習する。							
第10回	博物館における教育プログラムの展開（1）		プログラムを構成する上での教育計画について、実例を踏まえて学習する。							
第11回	博物館における教育プログラムの展開（2）		教育事業の展開について、その位置付けや分類をもとに学習する。							
第12回	博物館教育の実例（1）		対話型鑑賞法の実践例を検証し、その有用性についてグループワークを通じて考える。						レポート提出	
第13回	博物館教育の実例（2）		各博物館における実践例をもとに、博物館教育の現状と課題について考える。						オンデマンド授業	
第14回	期末レポート発表（1）		期末レポートを発表する。また、他者のプレゼンテーションをもとに討議する。							
第15回	期末レポート発表（2）		期末レポートを発表する。また、他者のプレゼンテーションをもとに討議する。授業の総括。							
授業方法(他 ゼミナール、 グループワーク 等)	グループワーク	発表、ポスター作成	資料記入	リフレクションシート	ディベート					
評価方法 及び 評価 基準	授業への参加度（30%）、期末レポート（70%）により総合的に評価する。									
課題 等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。									
事前 事後 学修	授業の内容を復習すること。日頃から、機会があるごとに博物館を見学すること。									
教材 教科書 参考書	適宜紹介する。									
留意 点	授業に積極的に参加し、発言すること。 第13回目はオンデマンド授業を行います。受講者は、指定された期間に、授業動画を視聴し、授業で指示された課題およびコメントを提出してください。詳細はTeamsで説明します。									

科目名	社会福祉論 A		科目ナンバリング	L-QUS03-30. NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L40070		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	松本 郁代			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士	選択必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 社会福祉と社会福祉学の違いを確認し、社会福祉政策を学ぶ。また、生活問題を抱えることが自己責任として捉えられてきたことについて、科学的に認識することによって、そもそも社会福祉という営みが、どのように人々に受け入れられていったのかについて講義する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	社会福祉政策及び社会福祉の制度を理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	社会福祉とは何か			社会福祉と「福祉」との違い、社会福祉の定義					社会福祉の定義を調べて、発表する	
第2回	社会福祉の存在意義とは			社会福祉の存在理由を問う						
第3回	社会福祉政策と社会問題①			社会福祉政策の対象とは						
第4回	社会福祉政策と社会問題②			社会福祉の対象としての生活問題					指定論文を複写	
第5回	社会福祉政策の現代的課題			社会的排除と社会的包摂						
第6回	社会福祉の歴史を学ぶにあたって			社会福祉の歴史を学ぶ必要はないか？						
第7回	欧米の社会福祉の歴史①			欧米の前近代社会における社会福祉の歴史						
第8回	欧米の社会福祉の歴史②			欧米の近代社会における社会福祉の歴史①						
第9回	欧米の社会福祉の歴史③			欧米の近代社会における社会福祉の歴史②						
第10回	欧米の社会福祉の歴史④			欧米の現代社会における社会福祉の歴史①						
第11回	欧米の社会福祉の歴史⑤			欧米の現代社会における社会福祉の歴史②						
第12回	社会福祉政策の論点と構成要素①			社会福祉政策						
第13回	社会福祉政策の論点と構成要素②			社会福祉における普遍主義・選別主義						
第14回	社会福祉政策の論点と構成要素③			自己決定とパターンリズム、スティグマ・エンパワーメント						
第15回	社会福祉政策の論点と構成要素④			社会福祉政策の国際比較、福祉国家論						
授業方法(レクチャー、演習、グループワーク等)	文献講読									
評価方法及び評価基準	試験(客観式・短答式)のみで評価									
課題等	その都度、指示をする。									
事前事後学修	学術雑誌の論文の閲覧について、その都度。指示をする。									
教材教科書参考書	井村圭社・藤原正範編(2007)『日本社会福祉史』勁草書房, ISBN: 978-4-326-60197-4 岩崎晋也(2018)『福祉原理 社会はなぜ他者を援助する仕組みを作ってきたのか The principles of Welfare: Why Has Society Been Creating a System of Helping Strangers?』有斐閣, ISBN: 978-4-641-17442-9 室田保夫(2018)『社会福祉 新・基礎からの社会福祉』ミネルヴァ書房, ISBN: 978-4-623-08295-7 ミネルヴァ書房編集委員会編集部(2024)『社会福祉小六法2024』ミネルヴァ書房, ISBN: 未定									
留意点	遅刻・私語厳禁、ただし公共交通機関遅延の場合は、遅延証明書を持参のこと。交通事情や天候によって、オンデマンドとすることがある。									

科目名	障害者の生涯学習		科目ナンバリング	L-QUS03-31.NS	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
	科目コード		L40069			30時間				
区分	資格関係科目 社会教育士 選択必修		担当者名	川村 泰弘 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>障害のある人々の生涯にわたる教育権・学習権は国際的なレベルでも確認されている。本授業では、障害のある人々が種々の困難を乗り越えて生涯学習の活動に参加し、また、学ぶ機会の拡大を獲得していくためには、社会がどうあればよいかをグループワークやディスカッション、「障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画の作成を通して考えていく。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1 障害のある人々の学校教育終了後の学びと社会参加の現状と課題について、ディスカッションにより理解を深める。</p> <p>2 障害のある人々の生涯にわたる学びの保障と推進・拡充のあり方について、自分の意見を述べることができる。</p> <p>3 グループ別に、先行事例を参考にしながら「障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画を考え、発表する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	オリエンテーション 生涯学習の定義と障害者と生涯学習		・学習の進め方(グループディスカッション)について説明する。 ・生涯学習の歴史と「障害者の生涯学習」に関する我が国の取り組みを配布資料及び「学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議の報告」等を通して知る。					毎回の授業終了時に次時の予習シートを配布する。		
第2回	障害者権利条約と生涯学習		・教科書の「はじめに」及び「序章 障がい者権利条約と生涯学習の保障」を通読し、障がい者の学ぶ権利について意見交換する。							
第3回	生涯学習の場で学ぶ障害のある青年・成人の声を聴く		・教科書「第1章 友だちと学ぶのは楽しい」を読み、障害者自身の語る言葉を通して、障害者にとっての生涯学習の意義と必要性を理解する。							
第4回	地域・施設における青年学級の実践		・教科書「第2章 地域・施設の実践から」の第1節「那賀青年学級」(和歌山)と第2節「スマイル青年」(東京)の実践を通して青年学級の役割を考える。							
第5回			・教科書「第2章 地域・施設の実践から」の第3節「ハスの実の家」(福井)と第4節「われらの大学校」(滋賀、京都)の実践を通して「障害の重い人にとっての学び」と「知的障害のある人々の高等教育」について考える。							
第6回	大学におけるオープンカレッジの実践		・教科書「第3章 大学におけるオープンカレッジの実践」の第1節「オープンカレッジ東京(東京学芸大学)」の実践を通して、大学を活用した生涯学習講座の意義とその運営の在り方を考える。							
第7回			・教科書「第3章 大学におけるオープンカレッジの実践」の第2節「愛知県立大学におけるオープンカレッジ」の実践を通して、発達障害のある青年への生涯学習支援について考える。							
第8回	障害のある人のスポーツ活動		・教科書「第4章 青年期の発達課題に関わって」の第1節「スポーツ分野における障がいのある人の生涯学習」を読み、障害者スポーツの現状と障害があってもスポーツを学び楽しむことのできる環境整備について考える。							
第9回	障害のある青年・成人期への性と生の学習		・教科書「第4章 青年期の発達課題に関わって」の第2節「いのち・愛・性を学ぶ障がい当事者たち」を読み、障害のある青年・成人期における性と生の学習の大切さを考える。							
第10回	すべての人々の生活・人生における学びの保障		・教科書「第5章 障がい者の社会教育・生涯教育の歩みと現状」の第1節「障がい者社会教育のとらえ方と課題」を読み、障害のある人々を含むすべての人々の生活・人生にとっての学習保障を考える。							
第11回	我が国における障がい者の社会教育・生涯学習の歴史		・教科書「第6章 歴史に学ぶ」を通して、障がい者の社会教育・生涯学習の我が国における歴史的な流れを振り返り、障害のある人々の生涯学習のこれからを考える。							
第12回	障害者の生涯学習を推進するために私たちがしなければならないこと		・学生を数グループに分け、それぞれが障害者支援グループであると想定して、「(※)障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画案を作成する(※)はグループで自由に設定した障害名とする。							
第13回										
第14回	報告会「これからの障害者の生涯学習」		・企画・運営計画案を発表し、話し合うことにより、「障害者の生涯学習講座」の計画づくりの楽しさと難しさを味わう。							
第15回	障害のある人々の生涯学習支援		・教科書「終章 障がい者の生涯学習支援の展望と課題」の第2節「断続性と任意の『生涯学習』から権利としての生涯にわたる学び・発達支援へ」を読み、障害者の生涯学習についての各自の考えをまとめる。							
授業方法(方法・手段・ツール等)	誘導ディスカッション	グループワーク	発表、ポスター作成	資料記入	授業中のノート取り					
評価方法及び評価基準	レポート(40%)、「障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画の作成(30%)、授業への参加度(30%)									
課題等	第3回目、第5回目、第7回目、第9回目、第14回目の授業後に小レポートの課題を出す。小レポートは次の講義開始時に提出する。第12回目と第13回目の授業では、グループで「障害者の生涯学習講座」の企画・運営計画書を作成する。									
事前事後学修	事前：次時の範囲となる教科書の内容を確認し、予習シートを作成すること。 事後：教科書や資料を見て授業を振り返り、疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。									
教材教科書参考書	教科書：田中良三・藤井克徳・藤本文朗編著(2016)『障がい者が学び続けるということ』新日本出版社 ISBN978-4406059794 そのほか、随時プリントを配布する。									
留意点	企画・運営計画案の作成は、授業時間内だけでは難しい場合もあることから、メンバー間で空き時間等を調整して主体的に進めてください。									

科目名	博物館概論		科目ナンバリング	L-QUCR2-00. NSC	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	L30052		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	井上 裕太 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>博物館や学芸員について、基礎的な知識を身に付ける。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	博物館や学芸員に関する歴史や現状について理解し、取り組みについて関心を持つ。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
第1回	ガイダンス			授業の進め方						
第2回	宣教師館見学			国の重要文化財に指定されている外人宣教師館を見学し、その歴史を学習する。						
第3回	博物館とは			博物館とは何か、歴史的経緯を中心に学習する。						
第4回	博物館法と関連法規			博物館法や関連する法律について学習する。						
第5回	弘前大学北日本考古学研究センター見学			弘前大学北日本考古学研究センターを見学し、展示の在り方について学習する。						
第6回	博物館史（1）			明治時代～終戦までの博物館・博物館学の歴史的展開について学習する。						
第7回	博物館史（2）			戦後～現在までの博物館・博物館学の歴史的展開について学習する。					レポート提出	
第8回	レポート発表			弘前大学北日本考古学研究センター見学を踏まえたレポートを発表する。また、他者の発表をもとに討議する。						
第9回	学芸員の業務			学芸員の仕事について、博物館法や実践例をもとに学習する。						
第10回	博物館資料の保全			博物館資料の取り扱いについて学習する。						
第11回	博物館資料の収集			博物館における収集やコレクションの形成について学習する。						
第12回	教育普及活動			博物館における教育普及活動の種類と特徴について学ぶ。						
第13回	博物館と地域振興			博物館と地域振興の関係性について具体例をもとに学習する。					オンデマンド授業	
第14回	博物館経営			博物館経営とは何か、基本的考え方について学習する。						
第15回	試験、まとめ			筆記試験と授業のまとめを行う。						
授業方法(FD、FD、グループワーク等)	実習、フィールドワーク	グループワーク	発表、ポスター作成	ディベート	資料記入	リフレクションシート				
評価方法及び評価基準	授業への参加度（30%）、レポート（20%）、試験（50%）により総合的に評価する。									
課題等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。									
事前事後学修	授業の内容を復習すること。日頃から、機会があるごとに博物館を見学すること。									
教材教科書参考書	適宜紹介する。									
留意点	授業に積極的に参加し、発言すること。 第13回目はオンデマンド授業を行います。受講者は、指定された期間に、授業動画を視聴し、授業で指示された課題およびコメントを提出してください。詳細はTeamsで説明します。									

科目名	博物館経営論		科目ナンバリング	L-QUCR3-01.NC	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L30059		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	井上 裕太 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>博物館経営の現状と課題について、具体例を踏まえて理解を深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	博物館経営の現状と課題を指摘し、自らの意見を述べるができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業の進め方						
第2回	博物館経営とは			ミュージアム・マネジメントについて考える。						
第3回	博物館の実情			文部科学省の社会教育調査や日本博物館協会の博物館総合調査などをとに、博物館の実情について考える。					オンデマンド授業	
第4回	組織と倫理			博物館を支える組織と職業倫理について学習する。						
第5回	博物館と行財政（1）			博物館を取り巻く法体系や博物館行政の在り方について考える。						
第6回	博物館と行財政（2）			指定管理者制度の在り方や博物館財政について学習する。						
第7回	博物館と広報活動（1）			博物館における広報とは何か考え、広報計画について学ぶ。						
第8回	博物館と広報活動（2）			博物館広報の具体例や取材対応について学習する。						
第9回	博物館経営と付帯施設			博物館における付帯施設の位置付けや役割について、ミュージアム・ショップ、レストラン等の事例から学習する。						
第10回	博物館経営における連携			博物館の連携や地域との協働について、具体例をもとに学習する。						
第11回	博物館経営と評価（1）			博物館経営の評価について背景や計画策定を中心に学習する。						
第12回	博物館経営と評価（2）			博物館経営の評価について、実践例や評価導入の意義について学習する。					レポート提出	
第13回	レポート発表（1）			博物館の年報をもとに、博物館経営の実例についてプレゼンする。あわせて他者の発表を評価する。					プレゼンテーション	
第14回	レポート発表（2）			博物館の年報をもとに、博物館経営の実例についてプレゼンする。あわせて他者の発表を評価する。					プレゼンテーション	
第15回	レポート発表（3）、まとめ			博物館の年報をもとに、博物館経営の実例についてプレゼンする。あわせて他者の発表を評価する。また、授業の総括を行う。					プレゼンテーション	
授業方法(ゼミナール、グループワーク等)	ディベート	発表、ポスター作成	資料記入	リフレクションシート	グループワーク					
評価方法及び評価基準	授業への参加度（30%）、レポート（70%）により総合的に評価する。									
課題等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。									
事前事後学修	授業の内容を復習すること。日頃から、機会があるごとに博物館を見学すること。									
教材教科書参考書	適宜紹介する。									
留意点	授業に積極的に参加し、発言すること。 第3回目はオンデマンド授業を行います。受講者は、指定された期間に、授業動画を視聴し、授業で指示された課題およびコメントを提出してください。詳細はTeamsで説明します。									

科目名	博物館資料論		科目ナンバリング	L-QUCR3-02. NC	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L30053		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	井上 裕太 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>資料は、博物館の土台となるものであり、資料がなければ展示を成り立たせることが出来ない。そこで、博物館機能の根幹をなす資料の概念や収集、整理、保管、活用等について様々な具体例をもとに理解を深める。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館資料とは何かを説明できる。 ・博物館資料にかかる、収集、整理、保管、活用等の学芸員の業務について具体的に把握し、説明できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業の進め方。博物館資料の概念について学習する。						
第2回	一次資料と二次資料			一次資料と二次資料それぞれの重要性について、具体例をもとに理解する。						
第3回	博物館における調査・研究（1）			調査・研究活動やその方法について学習する。						
第4回	博物館における調査・研究（2）			調査・研究活動と博物館の諸活動への還元について学習する。						
第5回	博物館における資料収集（1）			収集理念、方法、資料化、コレクションの形成について学習する。						
第6回	博物館における資料収集（2）			資料収集における倫理の問題について学習する。						
第7回	博物館における資料の分類			資料の分類とその意義について学習する。						
第8回	中間レポート発表			中間レポートを発表する。						
第9回	博物館資料の修理・修復			修理・修復の目的や方法について学習する。						
第10回	博物館における資料の保管			IPM（総合的有害生物管理）、温度・湿度等に関する理解を深める。						
第11回	博物館資料の活用とその方法（1）			コロナ禍における博物館資料の活用について、具体例をもとに学習する。					オンデマンド授業	
第12回	博物館資料の活用とその方法（2）			博物館資料の活用について、海外の事例をもとに考える。						
第13回	博物館資料の活用とその方法（3）			博物館資料の活用について、国内の事例をもとに考える。					レポート提出	
第14回	期末レポート発表（1）			期末レポートを発表する。						
第15回	期末レポート発表（2）			期末レポートを発表する。授業の総括。						
授業方法(ゼミナール、グループワーク等)	ディベート	発表、ポスター作成	資料記入	リフレクションシート						
評価方法及び評価基準	授業への参加度（30%）、レポート（70%）により総合的に評価する。									
課題等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。									
事前事後学修	授業の内容を復習すること。日頃から、機会があるごとに博物館を見学すること。									
教材教科書参考書	適宜紹介する。									
留意点	授業に積極的に参加し、発言すること。 第11回目はオンデマンド授業を行います。受講者は、指定された期間に、授業動画を視聴し、授業で指示された課題およびコメントを提出してください。詳細はTeamsで説明します。									

科目名	博物館資料保存論		科目ナンバリング	L-QUCR3-03. NC	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L30061		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	井上 裕太 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 学芸員は、資料の現状を維持し、将来に残すためには資料保存上悪影響となる要因を知り、この要因に対して個別に対応することが必要となる。そこで、学芸員が最低限知っておくべき資料保存に関する考え方と基礎的知識を学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>本講義では事例紹介をまじえながら、資料保存の基礎を学ぶ。博物館が収蔵する様々な性質の資料について、それらがさらされている環境と、そこから生じうる劣化や喪失等、博物館資料の保存管理上の悪影響について理解すること、さらに、その影響を軽減、回避するために博物館ではどのような対策を講じているか理解することを目指す。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業の進め方。保存に関して、一般家庭でどのような工夫や対策がなされているか考える。						
第2回	博物館における資料保存とは			資料保存とは何かについて、文化財保護の歴史や資料劣化の要因、保存に関する倫理等の観点から学習する。						
第3回	温湿度環境			博物館の温湿度環境に関して、温湿度の変化が資料にどのような影響を与えるか、どのような現象が見られるかについて考える。						
第4回	光と照明			光の性質や文化財に与える影響、博物館における照明手法について学習する。						
第5回	室内空気汚染			空気中の汚染物質について、発生要因、種類、資料に与える影響などについて知り、その対策方法について考える。						
第6回	生物被害			虫やカビが資料保存に与える影響を学び、対策方法について考える。						
第7回	伝統的保存方法			伝統的に行われてきた防虫対策について知り、正倉院を事例に具体的な方法を学習する。						
第8回	博物館資料の被災防止と救援活動			文化財の被災を防止するための対策や被災時の対応について、具体的に学習する。						
第9回	資料の状態調査による現状把握			資料の保全をはかるための調査手法について学ぶ。						
第10回	修復・修理			紙資料を例に、修復の基本的な考え方や具体的な手順について学習する。						
第11回	資料の梱包と輸送			資料を移動する際の梱包方法、輸送方法について学習する。						
第12回	地域資源の保存と活用			地域資源として資料の保存と活用を両立させる考え方について学ぶ。					レポート提出	
第13回	地域文化の可能性			地域文化として資料を活用している具体例を知り、今後の博物館に期待される役割等について考える。					オンデマンド授業	
第14回	レポート発表（1）			期末レポートを発表する。					プレゼンテーション	
第15回	レポート発表（2）			期末レポートを発表する。授業の総括。					プレゼンテーション	
授業方法(予 演習、70分 ブレイン 等)	ディベート	発表、ポスター作成	資料記入	リフレクションシート						
評価方法 及び 評価 基準	授業への参加度（30%）、レポート（70%）により総合的に評価する。									
課題 等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。									
事前事後 学修	事前学修していることを前提で授業を進めるため、必ず予習を行うこと。日頃から、機会があるごとに博物館を見学すること。									
教材 教科書 参考書	【教科書】石崎武志（編著）『博物館資料保存論 第2版』講談社、2024年、ISBN 978-4-06-537479-5 教科書の内容に沿って授業を行うため、購入すること。									
留意 点	授業に積極的に参加し、発言すること。 第13回目はオンデマンド授業を行います。受講者は、指定された期間に、授業動画を視聴し、授業で指示された課題およびコメントを提出してください。詳細はTeamsで説明します。									

科目名	博物館展示論		科目ナンバリング	L-QUCR3-04. NC	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	L30062		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	井上 裕太 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 市民にとって最も身近な博物館活動は展示であり、市民が博物館を訪れるきっかけは魅力的な展示を見るためとも言える。博物館の顔とも言える「展示」の理念と具体的方法について、理解を深める。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	博物館における主要な機能である展示の意義や目的を学び、展示において必要とされる知識を身につけ、展示を観覧・観察する目を養うことを目標とする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備 考	
第1回	博物館展示論とは			博物館の定義や機能、展示に関する基本的事項について学習する。						
第2回	博物館展示の理念			博物館展示の理念について、博物館法やICOMの規約等をもとに学習する。						
第3回	博物館展示の歴史			博物館展示の歴史や展示論史の展開について理解を深める。						
第4回	構想と企画			展示設計や動線計画など、博物館において展示を作り上げる過程について、実例を紹介、解説する。						
第5回	展示ケース、照明			展示ケースの種類や特徴、照明計画や照明演出について解説する。						
第6回	パネル、映像展示			展示パネルや映像展示について、種類や展示効果について解説する。						
第7回	参加型展示、ユニバーサルデザイン			参加型展示やユニバーサルデザインなど、展示を構成する要素や演出について解説する。						
第8回	中間レポート発表			中間レポートを発表する。あわせて他者の発表を通じ、多様な物事の捉え方を学ぶ。						
第9回	展示の技法			展示手法やモノの見え方について学習する。						
第10回	注意事項			展示に際しての注意事項を、リスクマネジメントの観点から学習する。					オンデマンド授業	
第11回	図録			図録の読み比べを行い、内容のまとめ方や工夫について学習する。						
第12回	チラシ、ポスター			ポスター、チラシの作成など、展覧会の開催にあたり必要な事柄や広報活動について解説する。						
第13回	展示計画			これまでに学んだことを踏まえ、展示計画を考え発表する。あわせて他者の発表を通じ、多様な物事の捉え方を学ぶ。					レポート提出	
第14回	期末レポート発表（1）			期末レポートを発表する。あわせて他者の発表を通じ、多様な物事の捉え方を学ぶ。						
第15回	期末レポート発表（2）、まとめ			期末レポートを発表する。あわせて他者の発表を通じ、多様な物事の捉え方を学ぶ。授業の総括。						
授業方法(他 ゼミ、77分 ブレイン 等)	ディベート	発表、ポスター作成	資料記入	リフレクションシート	グループワーク					
評価方法 及び 評価 基準	授業への参加度（30%）、中間レポート（30%）、期末レポート（40%）により総合的に評価する。									
課題 等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。									
事前事後 学修	授業の内容を復習すること。日頃から、機会があるごとに博物館を見学すること。									
教材 教科書 参考書	適宜紹介する。									
留意 点	授業に積極的に参加し、発言すること。 第10回目はオンデマンド授業を行います。受講者は、指定された期間に、授業動画を視聴し、授業で指示された課題およびコメントを提出してください。詳細はTeamsで説明します。									

科目名	博物館情報・メディア論		科目ナンバリング	L-QUCR3-05. NC	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	L30060		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	渡部 鮎美				授業 形態	講義	単独
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 本講義では博物館での情報やメディアの活用にあたって必要となる基礎的な知識や方法論を学ぶ。その上で、博物館での情報化や情報活用の具体的な事例を学び、現代社会の中での博物館のあり方について考える。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 博物館での情報やメディアの活用にあたって必要とされる技能や理論を習得する。 2. 実習等を通して、実践的な情報の活用力・発信力をはぐくむ 3. 情報の利用についての法的規制や権利を理解し、よりよい情報発信方法を考えることができるようになる</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	博物館とメディア			博物館で用いられてきたメディアの理論と歴史について学ぶ						
第2回	博物館における情報の意義と重要性			博物館の持つ情報の意義と保存・活用方法について理解する						情報リテラシー教育
第3回	博物館活動の情報化（1）調査・研究活動			博物館の調査・研究活動を実習を通して学び、情報化について考える						実習・グループワーク
第4回	博物館活動の情報化（2）展示・教育活動			博物館の展示・教育活動を実習を通して学び、情報発信について知る						発表
第5回	博物館での情報管理と情報公開			博物館での情報の公開・活用・評価について学び、実習で理解を深める						実習・グループワーク
第6回	博物館情報の双方向活用			博学連携などの事例からICT社会の中の博物館について考える						
第7回	ドキュメンテーションとデータベース化			デジタルアーカイブの意義・方法・課題について理解を深める						
第8回	データベースの役割（1）			実習形式でデータベースの基礎と理論を学ぶ						実習
第9回	データベースの役割（2）			実習形式でデータベースの活用方法を学ぶ						実習
第10回	メディアリテラシーと情報機器			情報機器の活用と新たなメディア経験、情報発信について考える						情報リテラシー教育
第11回	視聴覚メディアを活用した学習支援の方法			博物館における子どもと大人を対象にした学習支援について学ぶ						
第12回	映像理論			映像の読み方と描き方について具体的なメディアから考える						実習・グループワーク
第13回	博物メディアと地域連携			インターネット等のメディアを活用した博物館の地域連携について学ぶ						
第14回	博物館に関する法と権利			著作権、肖像権、権利処理、情報倫理などについて考える						情報リテラシー教育
第15回	現代社会と博物館の情報資源			東日本大震災の事例から博物館の情報資源の活用について考えを深める						
授業方法(他 ディプロマ ポリシー等)	実習、フィールドワーク	発表、ポスター作成	グループワーク	リフレクションシート						
評価方法 及び 評価 基準	講義内で使用するワークシート（20%）、中間課題（30%）、学期末レポート（50%）を総合的に評価します。									
課題等	課題の詳細については講義内で説明します。									
事前事後 学修	積極的に博物館や美術館、資料館等の展示を見に行くようにしてください。日常生活のなかで様々なメディアに触れ、情報をどのように発信し、受信しているのかを考えてください。準備学習の目安：1日30分以上									
教材 教科書 参考書	使用しません。必要に応じて資料を配布します。									
留意点	講義の中で発言を求められることがあります。実習の際にはハサミ等の文房具を持参してもらうことがあります。身近な話題から分かりやすい授業を心がけます。各回の講義に対する学生の理解度をコメントペーパーで確認し、必要に応じて内容を補い、理解度を高めるので、積極的なコメントを心がけてください。合理的配慮については随時、相談してください。									

科目名	博物館実習Ⅰ		科目ナンバリング	L-QUCR4-07.NC	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	通年	
			科目コード	L30056		30時間					
区分	資格関係科目		担当者名	井上 裕太 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	単独		
	学芸員	必修									
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 県内外の博物館の見学、および本学が所有する資料（国指定重要文化財・弘前学院宣教師館）、地域資源の活用を通じ、学芸員に必要な資料の取り扱いについて実践的に学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>										
到達目標	学内実習や見学実習を通じ、博物館の多様な実態や学芸員の業務を理解し、実践的な能力を養うとともに、現地実習に向け準備を行う。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）			備考
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について				第16回	調査研究	テーマについて調査研究を進める			
第2回	調査計画づくり	1年間を通じて課題とするテーマについて説明する				第17回	調査研究	テーマについて調査研究を進める			
第3回	資料収集	テーマに関する理解を深める				第18回	調査研究	テーマについて調査研究を進める			
第4回	資料収集	テーマに関する理解を深める				第19回	調査研究	テーマについて調査研究を進める			
第5回	資料収集	テーマに関する理解を深める				第20回	調査研究	テーマについて調査研究を進める			
第6回	資料収集	テーマに関する理解を深める				第21回	調査研究	テーマについて調査研究を進める			
第7回	資料収集	テーマに関する理解を深める				第22回	調査研究	テーマについて調査研究を進める			
第8回	中間まとめ	資料収集・視察で見えてきたことの確認				第23回	成果のまとめ	展示・研究成果公開への企画・立案			
第9回	中間発表	途中経過を発表する				第24回	成果のまとめ	展示・研究成果公開への企画・立案			
第10回	視察	宣教師館の視察を行う				第25回	成果のまとめ	展示・研究成果公開への企画・立案			
第11回	見学実習	見学実習のオリエンテーション				第26回	成果のまとめ	展示・研究成果公開への企画・立案			
第12回	見学実習	見学実習①				第27回	先輩の実習報告	実習報告に参加する			
第13回	見学実習	見学実習②				第28回	先輩の実習報告	実習報告に参加する			
第14回	見学実習	見学実習③				第29回	現地実習先の決定	実習館を決定し手続きを進める			
第15回	見学実習	見学実習④				第30回	まとめ	1年間の活動を振り返る			
授業方法(FD、FD、グループワーク等)	実習、フィールドワーク	グループワーク	発表、ポスター作成	リフレクションシート							
評価方法及び評価基準	作業への取り組み、経過報告、完成したレポートの内容、発表から総合的に判断する。 資料・データに基づき調査研究し、レポート作成を通じて報告できたか。また相互に質疑・応答ができたか。										
課題等	課題レポートは返却し、確認を行う。										
事前事後学修	平時から新聞やニュース、自治体の広報などを見るようにする。また博物館や文化財の見学に足を運ぶようにするとともに、それらをめぐる話題や議論について関心を持ち、自分なりの考えを持てるようにする。										
教材教科書参考書	授業内容に応じてレジュメのほか、適宜、文献や参考資料などを紹介する。										
留意点	授業への積極的参画・発言を求める。毎回の終了時には授業に関するコメントシートを提出する。										

科目名	博物館実習Ⅱ		科目ナンバリング	L-QUCR4-08. NC	単位数 時間	1単位	対象 学年	4年	開講 学期	前期
			科目コード	L30057		30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	井上 裕太 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	単独	
	学芸員	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 実習を通じて、博物館の複雑で重要な意味や、博物館が抱える問題を具体的に・経験的に把握する。また、そのための事前・事後指導を行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3・4に関連し、カリキュラムポリシーの3・4に関連している。</p>									
到達目標	博物館の現場において日々体験する仕事に関心を持ち、博物館の運営や学芸員の職務について実践的に理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回										
第2回										
第3回										
第4回										
第5回	青森県内外の博物館で、5日～2週間の実務実習を行う。									
第6回	実習はおおむね夏期休業中に実施する。実習期間・職務内容は実習館によって異なる。									
第7回	実習にあたり、前期授業時間を使って事前学習・調査、実習先での注意事項の説明を行う。									
第8回	実習後はその成果をプレゼンテーションで発表し、実習での学びを定着・共有する。									
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(他 Fワード、Fワード プログラム 等)	実習、フィールド ワーク	ディベート	リフレクションシート	発表、ポスター作成						
評価 方法 及び 評価 基準	授業時・実習への積極的な関心・参加姿勢、課題への取り組み、実習先での勤務実態の報告から、博物館実習を通じ専門的な知識・技能を修得できたかを確認し、総合的に判断する。									
課題 等	課題レポート、実習ノートは適宜返却し、確認を行う。									
事前 事後 学修	平時から新聞やニュース、自治体の広報などを見るようにする。また博物館や文化財の見学に足を運ぶようにするとともに、それらをめぐる話題や議論について関心を持ち、自分なりの考えを持てるようにする。									
教材 教科書 参考書	実習ノート、そのほか適宜提示する。									
留意 点	前年度までに「博物館実習Ⅰ」を履修していること。実習に対し真摯な姿勢を求める。									